

授業科目名: 子どもと健康	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 1単位	担当教員名: 白子純子 担当形態:単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・健康		
授業のテーマ及び到達目標 1. 乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解し、説明できる。 2. 乳幼児期の身体の諸機能の発達と生活習慣の形成について理解し、説明できる。 3. 安全な生活と怪我や病気の予防について理解し、説明できる。 4. 乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、説明できる。			
授業の概要 「子どもと健康」の授業では、領域「健康」の指導に関する専門的事項(乳幼児の健康、心身の発達と基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達と身体活動)について実践的に学び、乳幼児期の子ども の健康的な生活を支えるための知識や技能を身に付ける。			
授業計画 第1回: 乳幼児期の健康課題 第2回: 子どもの身体の発達の特徴 第3回: 乳幼児期の運動発達の特徴 第4回: 日常生活における運動 第5回: 遊びとしての運動 第6回: 乳幼児期の生活習慣の形成 第7回: 安全教育と危険(リスクとハザード) 第8回: 乳幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置・病気の予防 定期試験 実施しない			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 保育所保育指針(平成29年3月公示 厚生労働省) 幼稚園教育要領解説(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省)			
学生に対する評価 毎回の授業の最後に提出する小レポート60%、最終レポート40%			

授業科目名： 子どもと人間関係	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 深谷（小林）博子 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・ 人間関係		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 現代の乳幼児期を取り巻く人間関係の特徴とその社会的背景について理解できる。 2. 3 法令における領域「人間関係」について理解できる。 3. 乳幼児期における人と関わる力の発達について、家族、保育者、友だち、地域の人々などとの関係性を踏まえて説明できる。 4. 乳幼児の自立心、協同性、道徳性・規範意識などの育ちについて、人間関係の発達と関連させて説明できる。			
授業の概要			
本授業では、現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を及ぼす社会的背景を理解し、保育・幼児教育で保障すべき子どもの育ちや経験を理解する。特に乳幼児期の人間関係は、他者（家族、保育者、友だち、地域の人々など）との関係や遊び・生活等の場面を通じて育つことを、具体的な子どもの姿と合わせて理解する。また、他者との関わりを通じて育まれる自立心、協同性、道徳性・規範意識などの発達過程を学び、人と関わる力を育むための保育者の役割を考察する。			
授業計画			
第 1 回： オリエンテーション、現代社会と乳幼児の人間関係 第 2 回： 領域「人間関係」のねらいと内容及び配慮事項 第 3 回： 3歳未満児における人間関係の発達－身近な大人との関係を基盤に育つ子どもの姿－ 第 4 回： 3歳以上児における人間関係の発達－関係性の育ちや個と集団の育ちを視点として－ 第 5 回： 遊びと人間関係－乳幼児期の遊びの意義を探る－ 第 6 回： 自立心を育むための保育者の役割 第 7 回： 協同性、道徳性・規範意識を育むための保育者の役割 第 8 回： 学習のまとめ、授業内試験 定期試験 実施しない			
テキスト			
新時代の保育双書 保育内容人間関係 （第2版） 濱名浩 編 みらい			
参考書・参考資料等			

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

保育所保育指針（平成29年3月公示 厚生労働省）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省）

学生に対する評価

試験50%、提出課題30%、受講状況20%

授業科目名: 子どもと環境		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 1単位	担当教員名: 関川満美
				担当形態:単独
科 目		領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		領域に関する専門的事項 ・環境		
授業のテーマ及び到達目標				
幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 1. 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2. 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3. 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4. 領域「環境」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。				
授業の概要				
1. 子どもを取り巻く環境の実際を知り、理解し、課題を明確にして、自分の出来ることは何かを考えられるようにする。 2. 領域「環境」の保育内容や、幼児期の思考・科学的概念の発達のプロセスを理解できるようにする。 3. 具体的事例を挙げながら、集団生活の中で、自然や事物・事象への興味・関心を育てる環境の在り方や、物の性質や数量、文字などへの感覚を豊かにする素材や教材などに関する知識と技術を学べるようにする。				
授業計画				
第1回： 人と環境とは 第2回： 子どもを取り巻く環境と課題 第3回： 保育と環境、領域「環境」の理解 第4回： 子どもの育ちと自然・自然とかかわる遊び 第5回： 領域「環境」のねらいを踏まえた保育活動を考える 第6回： 自然、四季、伝統文化とふれあう遊び 第7回： 数量・文字、情報にかかわる遊び 第8回： 保育と地域環境 定期試験 実施しない				
テキスト				
環境をデザインする 子どもが育つ保育 小林保子・松橋圭子 学苑社				
参考書・参考資料等				

幼稚園教育要領(平成29年 文部科学省)
保育所保育指針(平成29年 厚生労働省)
学生に対する評価
小テストおよび課題レポート70%、受講状況30%

授業科目名: 子どもと言葉	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 1単位	担当教員名: 寶川雅子
			担当形態:単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・言葉		
授業のテーマ及び到達目標 1. 人間にとっての言葉の意義と機能を理解する。 2. 言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。 3. 児童文化財について、知識および技能の基礎を身に付ける。			
授業の概要 領域「言葉」の指導の基盤となる、子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的な知識と技能を身に付ける。具体的には、「言葉」の意義と機能について理解した上で、子どもの言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識および技能の基礎を身に付ける。			
授業計画			
第1回: オリエンテーション、言葉の機能、乳幼児期における言葉の大切さ 第2回: 領域「言葉」のねらい及び内容 第3回: 領域「言葉」と保育実践のつながり 第4回: 0歳児の言葉の発達と保育者の役割 第5回: 1歳児から3歳未満児の言葉の発達と保育者の役割 第6回: 3歳児以降の言葉の発達と保育者の役割 第7回: 子どもの言葉を豊かにする児童文化財の活用 第8回: 児童文化財を活用した模擬保育の実践と評価、授業のまとめ 定期試験 実施しない			
テキスト 平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 著者:文部科学省 厚生労働省 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社:チャイルド本社			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 単位認定試験(レポート課題)70%、毎回の授業後に取り組む確認テスト30%			

授業科目名: 子どもと表現(音楽)		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数: 1単位		担当教員名: 薩摩林(岸田)淑子 後藤俊哉	
						担当形態:オムニバス	
科 目		領域及び保育内容の指導法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		領域に関する専門的事項 ・表現					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 子どもの音楽表現の姿や、その発達を理解し、説明ができる。							
2. 様々な音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。							
授業の概要							
「子どもと表現」の授業では、子どもの音楽的な表現とその発達について理解するとともに、領域「表現」の指導に関する専門的事項(子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成など)について実践的に学び、乳幼児期の音楽表現活動を支えるための知識・技能、表現力を身に付けます。							
授業計画							
第1回: 領域「表現」のねらいと内容①音楽的な観点から(担当:後藤俊哉)							
第2回: 領域「表現」のねらいと内容②10の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解と小学校音楽教育との連続性(担当:後藤俊哉)							
第3回: 子どもの発達の特性と音楽的な表現について(担当:薩摩林(岸田)淑子)							
第4回: 子どもと身体表現～リズム遊び・リトミックの実践～(担当:薩摩林(岸田)淑子)							
第5回: 子どもの歌唱表現～歌う活動の実践と指導～(担当:薩摩林(岸田)淑子)							
第6回: 子どもと器楽表現①～楽器遊びを中心した実践と指導～(担当:後藤俊哉)							
第7回: 子どもと器楽表現②～手作り楽器の意義と制作～(担当:薩摩林(岸田)淑子)							
第8回: 指導計画の立案の考え方、指導案の作成の仕方(担当:後藤俊哉)							
定期試験 実施しない							
テキスト							
表現者を育てるための保育内容「音楽表現」 石井玲子 教育情報出版							
参考書・参考資料等							
幼稚園教育要領解説(平成30年3月)文部科学省							
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月) 内閣府・文部科学省・厚生労働省							
実践しながら学ぶ 子どもと音楽表現 石井玲子 保育出版社							
学生に対する評価							
受講状況60%、課題提出40%							

授業科目名: 子どもと表現(造形)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 1単位	担当教員名: 山成美穂 曾我市太郎
			担当形態:クラス分け・単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・表現		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 子どもの表現の姿や、その発達を理解し、説明ができる。 2. 造形表現活動の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。			
授業の概要			
「子どもと表現(造形)」の授業では、子どもの造形的な表現とその発達について理解するとともに、領域「表現」の指導に関する専門的事項(子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成など)について実践的に学び、乳幼児期の造形表現活動を支えるための知識・技能、表現力を身に付ける。			
授業計画			
第1回: 「表現」とは ～表現の源に出会う～ 第2回: 領域「表現」のねらいと内容 10の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解と小学校図工教育との連続性 第3回: 子どもの発達の特性と造形的な表現 第4回: 子どもと造形表現の基礎 ～つくる活動の実践と指導～ 第5回: 自然との関わりと造形的な表現 ～様々な素材を用いた表現～ 第6回: 自然との関わりから広がる造形 ～季節を感じる作品の意義と制作上の留意点～ 第7回: 造形表現の展開 ～季節を感じる作品の意義と制作上の留意点～ 第8回: 授業のまとめ ～子どもの感性を育むために～ 子どもの思いと表現について			
定期試験 実施しない			
テキスト			
新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現 無藤隆 萌文書林			
参考書・参考資料等			
幼稚園教育要領解説(平成30年3月 文部科学省) 保育所保育指針解説(平成30年2月 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省)			
学生に対する評価			
受講状況60%、課題提出40%			

授業科目名： 保育内容総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 幸喜健
			担当形態:単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針等に示されている保育内容の全体構造を理解し、具体的な保育の展開を構想できる			
2. 保育内容5領域に基づく総合的な指導について理解し、子どもの育ちを支える多様なアプローチを検討して実践できる			
3. 現代社会における多様な保育ニーズを理解し、家庭や地域社会に対する保育者の役割に気づき、その責務を果たせる			
授業の概要			
保育内容とは、乳幼児が園生活において経験したり、取り組んだりしていく活動のすべてを意味します。この講義では、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示されている保育の基本、領域の考え方について学び、保育内容5領域を総合的に捉える視点を身につけます。また、子どもの発達のプロセスや個々の特性に応じた保育、多様なニーズに応じた保育といった保育内容の展開について事例を通して具体的に検討しつつ、保育の現代的な課題についても理解を深めていきます。			
授業計画			
第1回：	講義概要と趣旨説明(オリエンテーション) 保育内容とは何か―要領・指針等における位置づけの理解―		
第2回：	保育内容の歴史的変遷		
第3回：	保育内容と子ども理解		
第4回：	保育内容における遊びの意味		
第5回：	保育内容と子どもの発達		
第6回：	保育の基本を踏まえた保育内容の展開① ―領域「健康」の視点から―		
第7回：	保育の基本を踏まえた保育内容の展開② ―領域「人間関係」の視点から―		
第8回：	保育の基本を踏まえた保育内容の展開③ ―領域「環境」の視点から―		
第9回：	保育の基本を踏まえた保育内容の展開④ ―領域「言葉」の視点から―		
第10回：	保育の基本を踏まえた保育内容の展開⑤		

ー領域「表現」の視点からー	
第11回:	保育の基本を踏まえた保育内容の展開⑥ ー総合的な視点からの展開ー(幼児期の終わりまでに育って欲しい姿、幼小接続期教育を含む)
第12回:	保育の計画と評価①教材研究(具体的な保育場面を想定した題材の検討とペープサートの制作)と指導案の作成
第13回:	保育の計画と評価②模擬保育(作成した指導案に基づくロールプレイによるペープサートの実演)と振り返り
第14回:	保育の多様なニーズに対応する展開① ー特別な支援を必要とする子どもの保育(保護者・地域・機関との連携を含む)ー
第15回:	保育の多様なニーズに対応する展開② ー保育の現代的な課題(保育実践におけるICT機器の活用を含む)ー
定期試験	実施しない
テキスト	
グループワークで学ぶ 保育内容総論 江津和也・幸喜健編著 大学図書出版	
参考書・参考資料等	
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)	
保育所保育指針(平成29年3月公示 厚生労働省)	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省)	
学生に対する評価	
課題提出60%、受講状況40%	

授業科目名: 保育内容演習健康		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 幸喜健
				担当形態:単独
科 目		領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 領域「健康」のねらいと内容、内容の取扱いについて理解した上で、子どもの具体的な姿を想定して保育を構想することができる				
2. 乳幼児期の子どもの心身の発達を踏まえ、子どもの生活や遊び体験にとって適切な活動内容、教材および情報機器の活用方法について理解し、保育実践を行うことができる				
3. 現代社会における諸問題や子どもの健全育成における課題を知り、具体的に保育の内容を構想して展開することができる				
4. 保育の全体的な計画や教育課程における指導案の位置づけを理解し、具体的な保育を想定した指導計画を立案できる				
5. 模擬保育とその振り返りを通して保育を改善する視点を身につけ、保育の実践力を高める				
授業の概要				
この授業では、保育内容を構成する5領域のひとつである領域「健康」についてその意義を理解した上で子どもの心身の健やかな発達に及ぼす保育の可能性について学びます。子どもの健康な心と体を育みつつ、子ども自らの健康な心身への興味・関心を促し、積極的な身体活動(遊び)を通した健康増進への援助や指導、安全・安心な生活のための保育環境の構成などといった具体的な取り組みについて実践を通して学びを深め、乳幼児の健康な生活を育むために必要な知識と技能を習得します。				
授業計画				
第1回:	「健康」とは何か 領域「健康」が目指すもの			
第2回:	乳幼児期の発育について 乳児期の運動機能の発達と留意点について			
第3回:	幼児期の運動機能の発達と留意点について 子どもにとっての「遊び」とは何か			
第4回:	「運動遊び」の援助・指導について 運動遊びを計画する際の留意点 具体的な保育場면을想定した運動遊びの指導についての検討と指導案の作成			
第5回:	幼児の主体性に配慮した遊びとしての運動指導の在り方①—運動遊びの実践例「いろいろな鬼ごっこ」—			
第6回:	幼児の主体性に配慮した遊びとしての運動指導の在り方②—運動遊びの実践例「小型			

	遊具(ボールや縄跳びなど)を用いた遊び」—
第7回:	乳幼児期の生活リズムの確立と生活習慣の形成について
第8回:	集団保育における指導の実際
	ICTを活用した生活習慣獲得を促す教材(デジタル紙芝居)の紹介
	教材研究(具体的な保育場面を想定した題材の検討)と指導案の作成
第9回:	ICTを活用した生活習慣獲得を促す教材(デジタル紙芝居)の制作①—「生活リズムの確立と生活習慣の形成」を題材として—
第10回:	ICTを活用した生活習慣獲得を促す教材(デジタル紙芝居)の制作②—「食育」を題材として—
第11回:	模擬保育(ICTで制作した教材(デジタル紙芝居)の実演)と振り返り
第12回:	乳幼児期の安全管理・安全教育①
	乳幼児期の発達と事故
第13回:	乳幼児期の安全管理・安全教育②
	事故を予防する観点(リスクとハザード)
第14回:	子どもの健康を取り巻く現代的な課題(多様化する保育ニーズ、家庭・地域との連携)
第15回:	授業まとめ
	乳幼児の健全な生活を育む保育者の役割と望まれる姿勢
定期試験	実施しない
テキスト	
なし	
参考書・参考資料等	
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)	
保育所保育指針(平成29年3月公示 厚生労働省)	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省)	
学生に対する評価	
課題提出40%、受講状況30%、発表・実践30%	

授業科目名: 保育内容演習人間関係	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 深谷(小林)博子 担当形態:単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「人間関係」のねらい及び内容について理解している			
2. 子どもを取り巻く現代社会の人間関係に関心をもち、その問題点や改善の方策を考えることができる			
3. 乳幼児期の人間関係の発達の特徴を理解し、特性をふまえた保育内容及び方法について考察できる			
授業の概要			
子どもの自主性と生活の充実感を育み、身近な人と親しみ、支え合って生活できることは、乳幼児期の社会性発達において重要である。その人との関わりの発達をどのように援助していくか理解することを目指し、保育者の援助の在り方を学修していく。乳幼児期に、子どもたちの人間関係がどのように広がり、また深まっていくのか、その過程を検討していく。また、他者とかかわる力を育むことをねらいとした具体的な保育の指導案を作成し、模擬保育を行い、振り返りを図る。			
授業計画			
第1回: 保育の基本			
第2回: 領域「人間関係」			
第3回: 0歳以上3歳未満児の子どもの人間関係の発達			
第4回: 3歳以上児の子どもの人間関係の発達			
第5回: 乳幼児の子どもの人とかかわる力を育む保育者とかかわり			
第6回: 自立心を育む			
第7回: 道徳性・規範意識の芽生え			
第8回: 協同して物事に取り組む(模擬保育と振り返り)			
第9回: 社会生活とかかわり(模擬保育と振り返り)			
第10回: 遊びと人間関係の発達(模擬保育と振り返り)			
第11回: 人とかかわる力を育む指導計画案の作成と教材研究の方法			
第12回: 特別な配慮を必要とする子どもの保育			
第13回: 子どもの育ちを支える保育者の人間関係			
第14回: ICTを活用した保育			
第15回: 人間関係における今日的課題、授業内試験			
定期試験 実施しない			

テキスト 保育内容「人間関係」と指導法 近喰晴子、小泉裕子 中央法規出版
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月公示 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省)
学生に対する評価 授業内試験60%、演習40%

授業科目名: 保育内容演習環境	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 関川満美 担当形態:単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 1. 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2. 領域「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3. 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5. 領域「環境」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。			
授業の概要 1. 子どもを取り巻くさまざまな環境(自然、物的、人的等)について理解を深め、具体的な子どもの姿と結び付けながら学習する。 2. 領域「環境」のねらい及び内容への理解を深め、保育活動との関連について学ぶ。 3. 演習や各課題を通して、保育実践に必要な知識や技術をより具体的に、多角的に学ぶ。			
授業計画 第1回: 保育における環境とは 第2回: 子どもにとっての環境とは 第3回: 自然環境との関わり① 自然との関わり 第4回: 自然環境との関わり② 自然環境を取り入れた保育の実践 第5回: 領域「環境」における自然と実際の保育活動 第6回: 季節と伝統文化 教材研究と指導計画の作成 第7回: 壁面環境の意義と効果(ICTの活用による教材作成) 第8回: 乳児と環境との関わり 第9回: 幼児と環境との関わり 第10回: 数量や図形、文字や標識との関わり 第11回: 安全な環境とは 第12回: 領域「環境」のとらえと保育への取り入れ方 第13回: 制作活動における教材研究と活動の際の環境構成 ICTを活用した指導計画の作成、 第14回: 3歳児入園期における保育室内の環境構成を意識した指導計画案の立案			

第15回： 模擬保育を想定した指導計画案の作成と振り返り、今後の課題
定期試験 実施しない
テキスト
コンパス 保育内容 環境 高橋貴志、目良秋子 建帛社
参考書・参考資料等
幼稚園教育要領(平成29年 文部科学省)
保育所保育指針(平成29年 厚生労働省)
学生に対する評価
小テストおよび課題レポート40%、演習課題30%、受講状況 30%

授業科目名: 保育内容演習言葉	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 寶川雅子
			担当形態:単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 領域「言葉」のねらい及び内容を理解している。			
2. 乳幼児期の言葉の発達や学びの過程を説明することができる。			
3. 領域「言葉」の指導場面を想定した保育を構想することができる。			
4. 模擬保育の実践と振り返りを通して、言葉に関する保育実践を行うことができる。			
授業の概要			
乳幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。また、乳幼児期の発達段階を考慮した上で、領域「言葉」に関する具体的な指導場面を想定した保育を構想する。そして、言葉に関する指導計画を作成し、模擬保育の実践を行い、その実践を振り返ることで、子どもの言葉を育むための保育実践力を身につける。			
授業計画			
第1回:	オリエンテーション、言葉の機能と発達、現代社会における言葉の育ちの課題		
第2回:	領域「言葉」のねらい及び内容		
第3回:	乳幼児期の言葉の発達の道筋		
第4回:	0歳児の言葉と保育の実践		
第5回:	1歳児の言葉と保育の実践		
第6回:	2歳児の言葉と保育の実践		
第7回:	3歳児の言葉と保育の実践		
第8回:	4歳児の言葉と保育の実践		
第9回:	5歳児の言葉と保育の実践		
第10回:	子どもの言葉を育む児童文化財の活用①(児童文化財の種類や意義を知る。おはなしをしたり聞いたりする体験を踏まえて、ICTの活用も含めた保育の方法を考える)		
第11回:	子どもの言葉を育む児童文化財の活用②(ペープサートやパネルシアターを演じたり見たりする体験を通して、ICTの活用も含めた保育の方法を考える)		
第12回:	子どもの言葉を育む児童文化財の活用③((デジタル)絵本の読み聞かせをしたり聞いたりする体験を通して、ICTの活用も含めた保育の方法を考える)		
第13回:	子どもの言葉を育む児童文化財の活用④(紙芝居を演じたり聞いたりする体験を通して、ICTの活用も含めた保育の方法を考える)		

第14回：	子どもの言葉を育む児童文化財の活用⑤(言葉遊びに親しむ体験を通して、ICTの活用も含めた保育の方法を考える)
第15回：	児童文化財を活用した模擬保育の実践と評価(ペープサートの教材を作成し、その指導計画を立て、模擬保育を行った後、実践の成果と課題を評価する)、授業のまとめ
定期試験	実施しない
テキスト	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 著者:文部科学省 厚生労働省 内閣府・文部科学省・厚生労働省 出版社:チャイルド本社
	「実践につなぐことばと保育」近藤幹生・實川雅子・源証香・小谷宜路・瀧口優 著 ひとなる書房
参考書・参考資料等	なし
学生に対する評価	単位認定試験(レポート課題)70%、毎回の授業後に取り組む確認テスト:30%

授業科目名: 保育内容演習表現	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 薩摩林(岸田)淑子 曾我市太郎 担当形態:オムニバス
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 子どもの発達をふまえた表現活動の指導ができるようになる。 2. 子どもの表現活動に必要な知識と技術を身につけ、制作・演奏に応用することができるようになる。 3. 子どもの経験や表現活動と音楽・造形を結びつけるための指導法、展開の仕方を身につける。			
授業の概要			
表現領域における造形表現と音楽表現の特性を理解し、保育活動の中で必要な知識と技術を学ぶ。造形(図工)と音楽の融合教材であるオリジナル教材を制作し、保育における教材研究の意義を考察する。また、子どもの表現活動の援助のあり方や、造形・音楽に関する教材の取り扱いについて理解を深める。			
授業計画			
第1回:	領域「表現」における目的:幼児期の造形活動・「歌のしかけ絵本」を作る(導入) (担当:曾我市太郎) 幼児期の音楽活動(担当:薩摩林(岸田)淑子)		
第2回:	表現教材「歌のしかけ絵本」を作る(1)(担当:曾我市太郎) 技法遊びと制作①:表現教材の制作に対する考え方と手順の理解、構想を練る		
第3回:	表現教材「歌のしかけ絵本」を作る(2)(担当:曾我市太郎) 技法遊びと制作②:幼児の体験と音響、映像・ICT活用		
第4回:	表現教材「歌のしかけ絵本」を作る(3)(担当:曾我市太郎) 技法遊びと制作③:幼児の表現と素材、映像・ICT活用		
第5回:	表現教材「歌のしかけ絵本」を作る(4)(担当:曾我市太郎) 技法遊びと制作④:発達段階と造形表現・あそび心を育む		
第6回:	表現教材「歌のしかけ絵本」を作る(5)(担当:曾我市太郎) 技法遊びと制作⑤:絵本の歴史と役割		
第7回:	表現教材「歌のしかけ絵本」を作る(6)(担当:曾我市太郎) 技法遊びと制作⑥:仕上げと装丁・幼児への表現指導とその留意点・ICTを活用した表現技法		
第8回:	表現教材「歌のしかけ絵本」を作る(7)(担当:曾我市太郎) 仕上げと装丁・模擬保育に向けての教材研究と指導案の作成の仕方		

第9回:	歌唱表現1 保育者としての歌唱技術習得・歌唱指導上の留意点 (担当:薩摩林(岸田)淑子)
第10回:	歌唱表現2 子どもの歌唱を支えるピアノ伴奏法と先歌い、コードネーム (担当:薩摩林(岸田)淑子)
第11回:	身体表現1 歌を伴う音楽あそび;わらべうた・乳児編(担当:薩摩林(岸田)淑子)
第12回:	身体表現2 歌を伴う音楽あそび;わらべうた・幼児編(担当:薩摩林(岸田)淑子)
第13回:	身体表現3 歌を伴う音楽あそび;手遊び・遊び歌(担当:薩摩林(岸田)淑子)
第14回:	楽器表現 リズム楽器の奏法 絵本と音楽:絵本の教材性と絵本に音をつける活動(担当:薩摩林(岸田)淑子)
第15回:	造形と音楽の融合教材「歌のしかけ絵本」を用いた指導案の作成と模擬保育の実践～ICTを活用した実践と留意点～(担当:薩摩林(岸田)淑子)
定期試験	実施しない
テキスト	
・こどもの歌93弾き歌いベスト曲集 東ゆかり他 カワイ出版 ・表現者を育てるための保育内容「音楽表現」 石井玲子 教育情報出版	
参考書・参考資料等	
幼稚園教育要領解説(平成30年3月)文部科学省	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)内閣府・文部科学省・厚生労働省	
学生に対する評価	
授業状況50%、成果物提出25%、実技発表25%	

授業科目名: 国語(書写を含む)		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 杉山 勇人
				担当形態:単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国語(書写を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 国語の各分野(日本語学、文学、言語文化、書写等)の基礎知識が身についている。				
2. 目的に応じて適切な口頭発表・文章表現ができる。				
3. 小学校国語科の学習指導を踏まえ、基礎的な教材研究・作品分析の方法を理解し、自らの意見を発表することができる。				
授業の概要				
「話す・聞く・書く・読む」という国語の学習は、すべての学修活動の基盤となる。本授業では、受講生自らこれまでの国語学習を内省し、日常生活・社会生活に必要な国語表現力をさらに高めていく活動を展開する。具体的には、国語の各分野(日本語学、文学、言語文化、書写など)の基礎知識の充実を徹底し、口頭発表・文章表現の演習を行う。また、小学校国語科の学習指導を踏まえて、基礎的な教材研究・作品分析の方法を学び、研究協議を行う。				
授業計画				
第1回: ガイダンス(自己紹介)、「ことば」について考える				
第2回: 日本語の音声・音韻・方言				
第3回: 日本語の文字―漢字力を高める(常用漢字について)〈常用漢字小テスト〉				
第4回: 日本語の語彙―語彙力を高める(慣用句・ことわざ・故事成語、語彙学習の方法)				
第5回: 口語文法(文の種類、体言と用言、用言の活用の種類)				
第6回: 口語文法(品詞の種類、品詞分解)〈授業内試験(口語文法)〉				
第7回: コミュニケーション・スキルとしての敬語表現を考える・話す				
第8回: 話し言葉と書き言葉、情報の扱い方(メディア・リテラシー)				
第9回: 読書について、意見・小論文の書き方〈授業内試験(文章表現)〉				
第10回: 論理的文章の構造を捉える、文学的文章の鑑賞・批評				
第11回: 小学校教科書を使った論理的文章の教材研究				
第12回: 小学校教科書を使った文学的文章の教材研究				
第13回: 書写―硬筆(ひらがな・カタカナ・漢字)による字形の組み立て方				
第14回: 書写―水書用筆による運筆の指導、毛筆の指導(基本点画の筆使い)				
第15回: 書写―毛筆の指導(楷書)、文字文化の指導				
定期試験 実施しない				
テキスト				

なし

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領解説 国語編(平成29年7月 文部科学省)

全国大学書写書道教育学会『国語科書写の理論と実践』(萱原書房、2020年)

学生に対する評価

課題提出40%、授業内試験30%、受講状況30%

授業内試験については試験後に解答例を配布し、解説を行なう。提出課題はコメントを付して返却する。

授業科目名: 社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 郡司直孝 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・社会		
授業のテーマ及び到達目標 1. 小学校学習指導要領の変遷を踏まえて、現行小学校学習指導要領(平成29年告示)の特色や小学校社会科の概要をとらえることができる。 2. 小学校社会科における各学年の目標及び内容を把握し、それらに関連する地理的・歴史的・公民的な事象を理解したり、それらの情報を適切に収集したりすることができる。 3. 社会的事象を教材化し、授業の展開に関するイメージを説明することができる。			
授業の概要 小学校社会科の指導計画作成や授業展開等に必要となる基礎的な知識・技能等の修得を目指す。具体的には、小学校学習指導要領の変遷や、現行小学校学習指導要領の概要を踏まえた上で、社会科の内容等を構成する地理的・歴史的・公民的な事象に関する理解を深める。合わせて児童や教師が情報を収集・活用する際に必要となる技能等について、情報通信技術の活用を含めて取り扱う。また、任意の社会的事象を教材化し、授業展開を構想する。			
授業計画			
第1回: オリエンテーション(授業の進め方、到達目標等) 小学校学習指導要領の変遷と特色、小学校社会科の概要について 第2回: 小学校学習指導要領解説を読む 現行小学校学習指導要領における第3学年及び第4学年の目標及び内容① (第3学年及び第4学年の目標と単元の系統について) 第3回: 現行小学校学習指導要領における第3学年及び第4学年の目標及び内容② (主に地理的環境に関わる「地図(地図帳)」「白地図」「方位」「地図記号」「47都道府県の名称と位置」について) 第4回: 現行小学校学習指導要領における第5学年の目標及び内容① (第5学年の目標と単元の系統について) 第5回: 現行小学校学習指導要領における第5学年の目標及び内容② (主に地理的環境に関わる「地球儀」「位置」「領土の範囲」「地形」「気候」「大陸と主な海洋」について) 第6回: 現行小学校学習指導要領における第5学年の目標及び内容③ (主に我が国の農業や水産業における食料生産について) 第7回: 現行小学校学習指導要領における第5学年の目標及び内容④			

	(主に我が国の工業生産について)
第8回:	現行小学校学習指導要領における第5学年の目標及び内容⑤ (主に我が国の産業と情報との関わり、自然災害について)
第9回:	現行小学校学習指導要領における第6学年の目標及び内容① (第6学年の目標と単元の系統について)
第10回:	現行小学校学習指導要領における第6学年の目標及び内容② (主に我が国の政治の働きについて(日本国憲法、国や地方公共団体の政治))
第11回:	現行小学校学習指導要領における第6学年の目標及び内容③ (主に我が国の歴史上の主な事象について①古代)
第12回:	現行小学校学習指導要領における第6学年の目標及び内容④ (主に我が国の歴史上の主な事象について②中世)
第13回:	現行小学校学習指導要領における第6学年の目標及び内容⑤ (主に我が国の歴史上の主な事象について③近世)
第14回:	現行小学校学習指導要領における第6学年の目標及び内容⑥ (主に我が国の歴史上の主な事象について④近代・現代)
第15回:	社会的事象を教材化し、授業を構想する際の視点
定期試験	実施しない
テキスト	
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編 平成29年7月(文部科学省)	
参考書・参考資料等	
作成したプリントを講義に配布するとともに、参考となる資料について講義時に提示する。	
学生に対する評価	
課題提出70%、受講状況30%	

授業科目名: 算数	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 橋本吉貴
			担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・算数		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 算数科の目標を捉えることができる。 2. 数学的活動を通して、基礎的基本的な概念や原理を把握することができる。 3. 算数科の5つの領域について、指導内容と系統性を捉えることができる。 4. 算数の問題解決力を養うことができる。			
授業の概要			
算数科の目標を踏まえ、数学的活動等を取り入れながら各領域(A数と計算、B図形、C測定、C変化と関係、Dデータの活用)での指導内容とそのねらいを捉えるとともに、算数問題を解く力を習得する授業を展開する。			
授業計画			
第1回: 算数科の目標及び内容			
第2回: 「A数と計算」の領域の指導Ⅰ(数の構成と表し方, 加法・減法、数の表し方)			
第3回: 「A数と計算」の領域の指導Ⅱ(乗法、除法、小数の意味と表し方)			
第4回: 「A数と計算」の領域の指導Ⅲ(小数の加法・減法、乗法・除法、分数の意味と表し方、概数と四捨五入)			
第5回: 「A数と計算」の領域の指導Ⅳ(分数の加法・減法、乗法・除法、文字を用いた式)			
第6回: 「B図形」の領域の指導Ⅰ(図形についての理解の基礎, 三角形や四角形などの図形、二等辺三角形や正三角形などの図形)			
第7回: 「B図形」の領域の指導Ⅱ(三角形、平行四辺形、ひし形、台形などの平面図形、平面図形の性質)			
第8回: 「B図形」の領域の指導Ⅲ(縮図や拡大図、対称な図形)			
第9回: 「C測定」の領域の指導Ⅰ(量と測定についての理解の基礎、長さやかさの単位と測定)			
第10回: 「C測定」の領域の指導Ⅱ(長さ、重さの単位と測定)、「C変化と関係」の領域Ⅰ(伴って変わる二つの数量)			
第11回: 「C変化と関係」の領域の指導Ⅱ(伴って変わる二つの数量の関係、比例)			
第12回: 「Dデータの活用」の領域の指導Ⅰ(簡単な表やグラフ, 表と棒グラフ)			
第13回: 「Dデータの活用」の領域の指導Ⅱ(データの分類整理、円グラフや帯グラフ)			
第14回: 「Dデータの活用」の領域の指導Ⅲ(データの考察、起こり得る場合)			
第15回: 授業内試験、まとめ			

定期試験　実施しない
テキスト 小学校学習指導要領解説算数編(平成29年)　文部科学省　日本文教出版
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 課題提出50%、試験20%、受講状況(主体的に学習に取り組む態度)30%

授業科目名: 理科	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 早石周平
			担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・理科		
授業のテーマ及び到達目標 1. 学習指導要領に示された理科の目標、内容、全体構造を理解できるようになる。 2. 理科の学習評価の考え方を理解できるようになる。 3. 科学・技術分野の発展に関わる概念、原理、法則等を理解し、説明できるようになる。 4. 実験観察指導における安全管理を理解し、理科実験室の運用をイメージできるようになる。 5. 児童の素朴概念に基づく授業づくり、教材理解を考えられるようになる。 6. 学習指導要領に基づいた理科の授業をデザインする力をもつ。			
授業の概要 この講義では、小学校の学習指導要領に基づいた理科の授業をデザインする力を養う。具体的には、学習指導要領の方向性、各学年の目標と内容、学習評価の方法、学習指導案の特徴、小学校理科で扱う各分野(エネルギー・粒子・生命・地球)の見方・考え方、ICT機器の活用方法、実験室管理の方法、実験や観察を安全に行うための留意事項、各学年の授業をデザインする上での留意事項などを示して行く。(実務経験を活かした授業)			
授業計画			
第1回: 学習指導要領の方向性 理科教育の意義と目的			
第2回: 各学年の目標と学習内容 4つの学習分野との関連			
第3回: 学習評価 評価規準の作成			
第4回: 「Aエネルギー・粒子」の学習内容の指導と評価			
第5回: 「B生命・地球」の学習内容の指導と評価			
第6回: 学習指導計画と学習指導案の意味と構造			
第7回: 「エネルギー」の学習内容の指導と概念形成(発展的な内容を含む)			
第8回: 「粒子」の学習内容の指導と概念形成(発展的な内容を含む)			
第9回: 「生命」の学習内容の指導と概念形成(発展的な内容を含む)			
第10回: 「地球」の学習内容の指導と概念形成(発展的な内容を含む)			
第11回: 第3学年の授業のデザイン(発展的な内容を含む)			
第12回: 第4学年の授業のデザイン(発展的な内容を含む)			
第13回: 第5学年の授業のデザイン(発展的な内容を含む)			
第14回: 第6学年の授業のデザイン(発展的な内容を含む)			
第15回: 理科の学習指導における「プログラミング教育」			

定期試験 実施する
テキスト 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説理科編 文部科学省 東洋館出版社
参考書・参考資料等 未来をひらく小学理科3, 教育出版 未来をひらく小学理科4, 教育出版 未来をひらく小学理科5, 教育出版 未来をひらく小学理科6, 教育出版 参考サイト:NHK for School 理科のページ https://www.nhk.or.jp/school/rika/ .
学生に対する評価 試験60%、課題・提出物25%、受講後の学びのポートフォリオ15%

授業科目名: 生活	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 武山朋子
			担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生活		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 生活科の趣旨やねらいを理解し、低学年教育にとっての重要性を述べることができる。 2. 生活科の歴史的経緯と背景について理解することができる。 3. 具体的な活動や体験を重視した実践例から、気づきの質を高める指導の在り方を説明できる。 4. 就学前教育と小学校教育のカリキュラムの連携の重要性について述べることができる。			
授業の概要			
学習指導要領の趣旨やねらいを理解し、生活科誕生の歴史的経緯と背景、生活科を重視した教育の系譜を理解し、新しい学力観に立った「生活科」の授業の在り方を実践例から学び、理解を深められるよう授業を展開する。 (実務経験を活かした授業)学校現場における教員の経験を活かして、今日的な課題を取り上げて実践的な指導をする。			
授業計画			
第1回:	生活科誕生の背景と趣旨、能動的学習者としての子ども観		
第2回:	学習指導要領と生活科の目標		
第3回:	生活科の9つの内容と単元の構成		
第4回:	具体的な事例からとらえる生活科の授業イメージ		
第5回:	指導内容(1)(2)(3)のポイント		
第6回:	指導内容(4)(5)のポイント		
第7回:	指導内容(6)(7)のポイント		
第8回:	指導内容(8)(9)のポイント		
第9回:	内容の取扱いについての配慮事項		
第10回:	カリキュラムマネジメントを意識した年間指導計画の作成		
第11回:	カリキュラムマネジメントを意識した単元計画の作成		
第12回:	事例に学ぶ生活科の授業構成と指導案		
第13回:	事例に学ぶ生活科の評価		
第14回:	幼児期の育ちと学びを生かす		
第15回:	まとめ		
定期試験	実施しない		
テキスト			

小学校学習指導要領解説 生活編（平成29年6月） 文部科学省 東洋館出版

参考書・参考資料等

平成29年改訂 小学校教育課程実践講座「生活」 出版社:ぎょうせい

学生に対する評価

課題提出80%、受講状況20%

授業科目名: 音楽	教員の免許状取得のための 選択科目(小) 選択科目(幼)	単位数: 2単位	担当教員名: 薩摩林(岸田)淑子 後藤俊哉
			担当形態:オムニバス、 クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽		
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1. 楽典理論を理解して楽譜を正しく読み、楽曲を解釈して表現することが出来る。			
2. ピアノ演奏技術を習得して子どもの前で弾くことが出来る。			
3. 子ども達に独唱や弾き歌いを聴かせることが出来る。			
授業の概要			
小学校・幼稚園教育現場における指導の中で必要となる、ピアノ演奏、歌唱、弾き歌いの基礎技術を学ぶとともに、読譜力をつけるための楽典理論の学習を合わせて行う。ピアノ演奏、弾き歌いは、各自の音楽経験や実技レベルに合わせた課題曲を選択して実技演習・実技指導を行い、実技力を向上させる。			
授業計画			
第1回:	授業「音楽」の概要の説明、ピアノ演奏技術・歌唱表現技術の基礎演習 (担当:薩摩林(岸田)淑子)		
第2回:	楽典理論①楽譜の仕組み、五線、音部記号、鍵盤と音名 (担当:後藤俊哉)		
第3回:	楽典理論②音符と休符、リズムと拍子と小節 (担当:後藤俊哉)		
第4回:	ピアノ曲の実技演習① 楽譜の正しい読み方とピアノ実技の基礎を学ぶ (担当:薩摩林(岸田)淑子)		
第5回:	ピアノ曲の実技演習② 旋律の弾き方と和音の弾き方を学ぶ (担当:薩摩林(岸田)淑子)		
第6回:	楽典理論③変化記号と派生音の音名、音程 (担当:後藤俊哉)		
第7回:	楽典理論④調と音階、音楽用語、コードネーム (担当:後藤俊哉)		
第8回:	楽典理論⑤まとめのテストと解説 (担当:後藤俊哉)		
第9回:	弾き歌いの実技演習① 歌の楽曲解釈と歌唱法の基礎 (担当:薩摩林(岸田)淑子)		
第10回:	弾き歌いの実技演習② 歌の楽曲解釈と歌唱法の発展		

(担当:薩摩林(岸田)淑子)	
第11回:	弾き歌いの実技演習③ 歌とピアノのバランスと調和を学ぶ (担当:薩摩林(岸田)淑子)
第12回:	スクーリング:ピアノ曲の実技指導・実技発表 (担当:薩摩林(岸田)淑子、後藤俊哉)
第13回:	スクーリング:弾き歌いの実技指導・実技発表(担当:薩摩林(岸田)淑子、後藤俊哉)
第14回:	スクーリング:合唱の実践、合唱指導の留意点 (担当:薩摩林(岸田)淑子、後藤俊哉)
第15回:	スクーリング:器楽アンサンブル・リコーダーの実践、合奏指導の留意点 (担当:薩摩林(岸田)淑子、後藤俊哉)
定期試験	実施しない
テキスト	
バイエルピアノ教則本「やさしい楽典」付 New Edition 伊藤康英 編 音楽之友社	
こどもの歌93 弾き歌いベスト曲集 東ゆかり 他 カワイ出版	
参考書・参考資料等	
なし	
学生に対する評価	
受講状況60%、実技発表20%、試験(楽典理論)20%	
実技発表後には講評を行う。	

授業科目名: 図画工作	教員の免許状取得のための 選択科目(小) 選択科目(幼)	単位数: 2単位	担当教員名: 山成美穂 曾我市太郎
			担当形態:オムニバス、 クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・図画工作		
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1. 造形活動の良さや楽しさを理解し、制作に活かすことができる。 2. 材料の種類や特性、用具の正しい使い方についての知識や理解を深める。 3. 身近な材料や自然物を題材に活用することができる。			
授業の概要			
子どもが創造的な造形活動を行うためには、指導者に材料・用具・技能に関する知識と経験が求められる。また、それぞれの発達段階に適した教材の工夫が必要である。この科目では、子どもの教育現場で扱う基本的な用具・材料を用いて課題制作を行ない、子どもが造形活動を行なう意味の理解を幅広く深めていく。			
授業計画			
第1回:	ガイダンス 絵に表す:クレヨン・パス、水彩絵具の特性を活かした技法(1)ぼかし絵 (担当:山成美穂)		
第2回:	絵に表す:クレヨン・パス、水彩絵具の特性を活かした技法(2)フロッタージュ、スクラッチ (担当:山成美穂)		
第3回:	絵に表す:クレヨン・パス、水彩絵具の特性を活かした技法(3)バチック、デカルコマニー、にじみ (担当:山成美穂)		
第4回:	絵に表す:クレヨン・パス、水彩絵具の特性を活かした技法(4)ドリップング、吹き流し、泡絵の具、糸引き (前半担当:山成美穂 後半担当:曾我市太郎)		
第5回:	絵に表す:クレヨン・パス、水彩絵具の特性を活かした技法(5)スタンピング、フィンガーペインティング (担当:曾我市太郎)		
第6回:	絵に表す:クレヨン・パス、水彩絵具の特性を活かした技法(6)コラージュ (担当:曾我市太郎)		
第7回:	絵に表す:クレヨン・パス、水彩絵具の特性を活かした技法(7)スパッタリング (担当:曾我市太郎)		

第8回:	立体に表す:紙粘土を用いた造形(1)イメージを立体にする (担当:曾我市太郎)
第9回:	立体に表す:紙粘土を用いた造形(2)着彩 (担当:曾我市太郎)
第10回:	工作に表す:[はさみ・のり・紙]しかけ・動きのあるカードをつくる(1)構想、試作 (担当:山成美穂)
第11回:	工作に表す:[はさみ・のり・紙]しかけ・動きのあるカードをつくる (2)カード作りの仕上げ (担当:山成美穂)
第12回:	鑑賞:グループ鑑賞(1)絵に表す 【スクーリング】 (担当:山成美穂、曾我市太郎)
第13回:	鑑賞:グループ鑑賞(2)立体・工作に表す 【スクーリング】 (担当:山成美穂、曾我市太郎)
第14回:	造形遊び:ICTを活用した造形遊び 【スクーリング】 (担当:山成美穂、曾我市太郎)
第15回:	造形遊び:共同制作による創作活動 【スクーリング】 (担当:山成美穂、曾我市太郎)
定期試験	実施しない
テキスト	
図画工作1・2上(日本文教出版)	
図画工作3・4上(日本文教出版)	
図画工作5・6上(日本文教出版)	
参考書・参考資料等	
なし	
学生に対する評価	
学期末課題提出50%、受講確認テスト50%	

授業科目名: 家庭	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 佐藤陽子 谷祥子 担当形態:オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・家庭		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 小学校における「家庭」の授業を担当するために必要な実践的な知識・技能を、授業場面を意識しながら身に付け適用できる。			
2. 小学校学習指導要領解説家庭編に示されている内容の取扱いと指導上の留意事項および実習の指導について具体例から学び、子どもたちが生活をよりよくしようと工夫する資質・能力をどのように育成するか説明できる。			
授業の概要			
小学校における「家庭」の授業実践に必要な実践的な知識・技能と、家庭科に関連する背景的な知識を身に付けられるよう授業を展開する。			
授業計画			
第1回:	ガイダンス、家庭科の目標と内容構成(担当:佐藤陽子)		
第2回:	家庭科の学習対象(担当:佐藤陽子)		
第3回:	「家族・家庭生活」の学習内容 ー自分の成長・家庭生活と家族の大切さー(担当:佐藤陽子)		
第4回:	「衣食住の生活(食生活)」の学習内容 ー食事の役割ー(担当:佐藤陽子)		
第5回:	「衣食住の生活(食生活)」の学習内容 ー調理の基礎・留意点と配慮点ー(担当:佐藤陽子)		
第6回:	「衣食住の生活(食生活)」の学習内容 ーゆでる調理といためる調理、米飯とみそ汁の調理ー(担当:佐藤陽子)		
第7回:	「衣食住の生活(食生活)」の学習内容と「消費生活・環境」の学習内容の関連 (担当:佐藤陽子)		
第8回:	「衣食住の生活(食生活)」の学習内容 ー栄養を考えた食事ー(担当:佐藤陽子)		
第9回:	「衣食住の生活(衣生活)」の学習内容 ー衣服の着用と手入れー(担当:谷祥子)		
第10回:	「衣食住の生活(衣生活)」の学習内容 ー布を用いた製作ー(担当:谷祥子)		
第11回:	「衣食住の生活(衣生活)」の実習		

	－手縫いの技能－(担当:谷祥子)
第12回:	「衣食住の生活(衣生活)」の学習内容 －ミシン縫いの技能・留意点と配慮点－(担当:谷祥子)
第13回:	「衣食住の生活(住生活)」の学習内容 －健康・快適・安全な住まい方の工夫－(担当:佐藤陽子)
第14回:	「消費生活・環境」の学習内容 －持続可能な社会の構築に向けた消費生活と環境－(担当:佐藤陽子)
第15回:	小・中学校の系統性(担当:佐藤陽子)
定期試験	実施しない
テキスト	
小学校学習指導要領解説家庭編 文部科学省 東洋館出版社	
わたしたちの家庭科5・6 鳴海多恵子 他 開隆堂出版	
参考書・参考資料等	
なし	
学生に対する評価	
レポート60%、講義内課題40%	

授業科目名: 体育	教員の免許状取得のための 選択科目(小) 選択科目(幼)	単位数: 2単位	担当教員名: 西島大祐 担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育		
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 1. 様々な運動遊びや活動のねらいを知り、留意点について理解し、実践することができる。 2. 子どもの発育発達の特徴をふまえ、運動することの楽しさや重要性を理解し、支援・指導することができる。 3. 運動遊びや活動を発展させられる指導力と表現力を身に付ける。			
授業の概要 子どもの運動遊びや教科体育の領域で取り上げられている活動について、そのねらいや展開方法、安全上の留意点などについて学んでいく。子どもが身体を動かすことの意義を理解するとともに、指導できる技術の獲得を目指す。本授業科目はオンデマンド講義のほか、対面での実技によって行われる。			
授業計画 第1回: ガイダンス・「体育」の理解 第2回: 子どもの発育・発達と運動遊び 第3回: 身近な素材を使った運動遊びの考え方 第4回: 用具を用いない運動遊び 第5回: 運動用具を操作する遊び 第6回: 幼児・小学生を対象とした運動指導の考え方 第7回: 表現遊び・リズム遊び 第8回: 巧技台遊びと器械運動 第9回: 子どもと自然体験 第10回: 施設や用具の安全と管理 第11回: 現代の子どもの「遊び」と「運動」における諸問題 第12回: 運動遊びの実際1(からだを使った運動遊び) 第13回: 運動遊びの実際2(用具を使った運動遊び) 第14回: 運動遊びの実際3(ネット型スポーツ) 第15回: 運動遊びの実際4(ボールを使ったスポーツ)			

定期試験　実施しない
テキスト なし
参考書・参考資料等 青野光子・松本典子編著『幼児体育』建帛社、ISBN:978-4-7679-3285-9
学生に対する評価 授業内試験(実技含む)50%、受講状況30%、課題提出20%

授業科目名: 小学校英語	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 桐生直幸
			担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国語		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 第二言語習得の基本的な理論や異文化理解に関する事柄などについて理解し、小学校外国語活動・外国語を指導する上で必要な背景的知識を身に付ける。			
2. 学習指導要領の内容を踏まえて、言語活動を通した指導を行う上で必要な教室英語の基本的運用能力を習得する。			
授業の概要			
小学校英語教育の目標について理解するとともに、その指導を行う上で必要な第二言語習得の基本的な理論や異文化理解に関する事柄などについて理解を深める。現行学習指導要領(外国語活動・外国語)の内容を踏まえて、授業場面を意識できるように聞くこと・読むこと・書くこと・話すことの活動を紹介し、言語活動を通した指導を行う上で必要な教室英語の基本的運用能力を身に付けられるよう授業を展開する。			
授業計画			
第1回:	ガイダンス、小学校英語教育の意義		
第2回:	教室英語(授業の始まり)、異文化理解(挨拶)、第二言語習得(インプット)		
第3回:	英語の音声(イントネーション・強勢)、英語の語彙指導、ゲームの活用		
第4回:	英語の音声(リズム・語の連結)、異文化理解(虹の色)、歌やチャンツの活用		
第5回:	教室英語(活動の始まり・聞くこと)、場面を意識したリスニング(聞くこと)		
第6回:	教室英語(カードゲーム)、第二言語習得(沈黙期)、クイズの活用		
第7回:	教室英語(活動中:指示など)、場面を意識したスピーキング(話すこと:やり取り)		
第8回:	教室英語(活動中:発問など)、場面を意識したスピーキング(話すこと:発表)		
第9回:	教室英語(活動の終わり)、第二言語習得(言語使用)、言語活動を通した指導		
第10回:	教室英語(児童への指示:依頼など)、発音と綴りの関係(フォニックス)		
第11回:	教室英語(児童への指示:説明など)、英語の書き方(正書法とローマ字)		
第12回:	教室英語(授業の終わり)、場面を意識したリーディング(読むこと)		
第13回:	教室英語(読むこと・書くこと)、場面を意識したライティング(書くこと)		
第14回:	教室英語(ほめる・励ます)、絵本を活用した言語活動		
第15回:	教室英語のまとめ、場面を意識した指導と留意点		
定期試験	教室英語の実践(動画提出)		
テキスト			

小学校英語 はじめる教科書 改訂版(小川隆夫・東仁美著、mpi)

参考書・参考資料等

英語が好きな子供を育てる魔法のタスク(佐藤一嘉・矢後智子著、名古屋外国語大学出版会)

小学校学習指導要領 平成29年3月告示 文部科学省

小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 平成29年7月 文部科学省

学生に対する評価

教室英語の実践60%、課題提出40%

授業科目名: 国語科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 杉山 勇人
			担当形態: 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 小学校学習指導要領国語科の目標・内容を理解し、説明することができる。 2. 小学校国語科の指導計画や指導方法を理解し、授業を組み立てることができる。 3. 教材研究・模擬授業を通して、教員としての資質・能力を高め、国語科の各領域の実践的な授業構 想力・指導力を身につけることができる。			
授業の概要			
小学校国語科の授業を実践する資質・能力を養うために、学習指導要領の目標・領域・内容につい て理解する。国語科における主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりのために、指導計画や 指導方法を理解し、学習指導案を作成する。教材研究・模擬授業を通して研究協議を行い、実践的な 指導力や授業の創意工夫の方法を自ら進んで身につけていく。			
授業計画			
第1回:	学校教育における国語科の位置づけについて		
第2回:	国語科教育の目標 (小学校学習指導要領改訂のポイント)		
第3回:	小学校学習指導要領国語編〔知識及び技能〕の内容 ((1)言葉の特徴や使い方に関する 事項、(2)情報の扱い方に関する事項、(3)我が国の言語文化に関する事項)		
第4回:	小学校学習指導要領国語編〔思考力、判断力、表現力等〕の内容 (A話すこと・聞くこと、 B書くこと、C読むこと)		
第5回:	国語科学習指導案の書き方 (構成と内容)		
第6回:	国語科学習指導案の書き方 (評価方法、細案の具体例)		
第7回:	デジタル教科書・教材の取り扱い、情報通信技術の活用		
第8回:	教材研究・模擬授業①〔知識及び技能〕言葉の特徴や使い方に関する事項		
第9回:	教材研究・模擬授業②〔知識及び技能〕情報の扱い方に関する事項		
第10回:	教材研究・模擬授業③〔知識及び技能〕我が国の言語文化に関する事項		
第11回:	教材研究・模擬授業④〔思考力、判断力、表現力等〕話すこと・聞くこと		
第12回:	教材研究・模擬授業⑤〔思考力、判断力、表現力等〕書くこと		
第13回:	教材研究・模擬授業⑥〔思考力、判断力、表現力等〕読むこと		
第14回:	書写の指導法について (筆順、板書、水書用筆、毛筆)		
第15回:	残された課題について・全体のまとめと振り返り		
定期試験	実施しない		

テキスト

小学校学習指導要領解説 国語編(平成29年7月 文部科学省)

参考書・参考資料等

全国大学書写書道教育学会『国語科書写の理論と実践』(萱原書房、2020年)

学生に対する評価

課題提出40%、模擬授業・発表30%、受講状況30%

授業科目名： 社会科教育法		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名 小西 俊光 担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 小学校社会科の目標、内容、指導方法及び教科の特色を述べることができる。 2. 「主体的・対話的で深い学習」を実現するために、問題解決的な手法で社会科学習を展開することの大切さやその指導方法や留意点を理解している。				
授業の概要				
学習指導要領解説社会科編をもとに、小学校社会科の目標や内容、指導方法についての理解を図る。また、社会科の歴史的変遷に触れ、社会科の役割や使命、教科としての特色についても理解を図る。そして、「主体的・対話的で深い学び」を実現する社会科授業づくりについて、教材研究の仕方、学習指導案作成、模擬授業や具体的な実践事例を通して実践的に学び、教科目標を実現するために大切にしている「問題解決的な学習」について理解を深める。				
授業計画				
第1回： ガイダンス「科目の進め方とめあて」「これまで受けてきた小学校社会科の振り返り」				
第2回： 社会科誕生の歴史的経緯とその変遷				
第3回： 小学校社会科の教科目標と特色				
第4回： 小学校3学年の学習内容と指導上の留意点				
第5回： 小学校4学年の学習内容と指導上の留意点				
第6回： 小学校5学年の学習内容と指導上の留意点①（日本の国土と食料生産の様子）				
第7回： 小学校5学年の学習内容と指導上の留意点②（日本の工業生産と情報・自然環境の様子）				
第8回： 小学校6学年の学習内容と指導上の留意点①（日本の政治）				
第9回： 小学校6学年の学習内容と指導上の留意点②（日本の歴史、日本と世界の国々との関係）				
第10回： 実践から学ぶ（授業記録をもとに、社会科の授業の見方や進め方を学ぶ）				
第11回： 小学校社会科におけるICTの活用と地図学習				
第12回： 小学校社会科における学習評価の視点と方法				
第13回： 教材研究の仕方と学習指導案の書き方				
第14回： 「模擬授業」にチャレンジ（児童の問題意識を高めることを意識した授業づくり）				
第15回： まとめ（他教科等との関連、社会科を教える教師として大切にしたいこと）				
定期試験 実施しない				
テキスト				
「小学校学習指導要領解説 社会科編」 平成29年7月 文部科学省 日本文教出版				
「小学社会」 3・4・5・6年（教科書） 教育出版				

「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」 (令和7年度版) 帝国書院
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 受講状況50% 課題提出50%

授業科目名: 算数科教育法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 橋本吉貴
				担当形態:単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 算数科の4領域について、指導内容と系統性をとらえることができる。				
2. 算数科の基礎的・基本的事項の指導内容について、学習指導案を作成することができる。				
3. 演習や模擬授業を通して、指導法についての基本的な技能を身につけることができる。				
授業の概要				
算数科の目標や指導内容を知り、その意味や意義、指導方法等について理解する。そのため、学習指導要領解説に示された内容や教科書教材等を調べ、発達段階に応じた指導の要点をとらえるとともに、評価や指導のあり方について考察し、模擬授業を通して指導のポイントをつかめられるよう授業を展開する。				
授業計画				
第1回: 学習指導要領における算数科の目標、数学的活動の理解				
第2回: 教材研究(加法・減法の仕組み、逆思考の問題)				
第3回: 教材研究(乗法・除法の仕組み)、観点別評価のあり方と実際				
第4回: 教材研究(分数・小数の仕組み)、ICTの活用(デジタル教科書、電子黒板の活用)				
第5回: 教材研究(図形の面積や体積)、学習内容の理解Ⅰ(2～6学年 分数の加減乗除)				
第6回: 教材研究(測定の単位)、学習内容の理解Ⅱ(5学年 単位量あたりの大きさ)				
第7回: 教材研究(棒グラフや円グラフ)、学習内容の理解Ⅲ(6学年 比例と反比例)				
第8回: 学習内容の理解Ⅳ(6学年 データの考察、場合の数)				
第9回: 学習指導案の作成方法(例:2学年 100より大きい数、5学年 四角形と三角形の面積)				
第10回: 模擬授業①(授業例:2学年 長さの単位と計算)				
第11回: 模擬授業②(授業例:3学年 2桁同士のかけ算)				
第12回: 模擬授業③(授業例:4学年 変わり方調べ)				
第13回: 模擬授業④(授業例:5学年 小数のわり算)				
第14回: 模擬授業⑤(授業例:6学年 比例と反比例)				
第15回: 確認テスト、学習指導案作成のまとめ				
定期試験 実施しない				
テキスト				
小学校学習指導要領解説算数編(平成29年) 文部科学省 日本文教出版				
参考書・参考資料等				

小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)

学生に対する評価

課題提出(模擬授業の取組みを含む)50%、受講状況(主体的に学習に取り組む態度)30%、
試験20%

授業科目名: 理科教育法		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 佐藤陽子
				担当形態:単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 小学校学習指導要領(理科)の目標及び内容, 指導計画, 学習評価について理解する。				
2. 小学校理科の学習環境整備の方法を理解する。				
3. 小学校第3学年から第6学年の理科の学習内容を理解し, 小学校理科の学習指導案を構成する力と模擬授業を行う技能を習得する。				
授業の概要				
小学校学習指導要領(理科)の目標及び内容, 指導計画, 学習評価, 学習環境整備の方法等を扱う。小学校第3学年から第6学年の理科の学習内容と教材について学び, 主体的・対話的で深い学びの実現が可能な学習指導案を構成する力と模擬授業を行う技能を育成する。				
授業計画				
第1回: 小学校理科の目標および内容構成				
第2回: 小学校理科の指導計画において留意すべき重点事項				
第3回: 小学校理科の学習評価				
第4回: 小学校理科の学習環境整備(理科室及び準備室・校舎内外の安全管理, ICTの活用)				
第5回: 小学校理科における年間指導計画と単元計画の作成				
第6回: 中学年の学習指導案と模擬授業-学習指導案の内容構成と授業展開例, 学習指導案の作成, 模擬授業-				
第7回: 高学年の学習指導案と模擬授業-学習指導案の内容構成と授業展開例, 学習指導案の作成, 模擬授業-				
第8回: 第3学年の教材研究1-物の性質, 風とゴムの力の働き, 光と音の性質, 磁石の性質及び電気の回路-				
第9回: 第3学年の教材研究2-身の回りの生物, 太陽と地面の様子-				
第10回: 第4学年の教材研究1-空気, 水及び金属の性質, 電流の働き-				
第11回: 第4学年の教材研究2-人の体のつくりと運動, 動物の活動や植物の成長と環境との関わり, 雨水の行方と地面の様子, 気象現象, 月と星-				
第12回: 第5学年の教材研究1-物の溶け方, 振り子の運動, 電流がつくる磁力-				
第13回: 第5学年の教材研究2-生命の連続性, 流れる水の働き, 気象現象の規則性-				
第14回: 第6学年の教材研究1-燃焼の仕組み, 水溶液の性質, てこの規則性, 電気の性質や働き-				

第15回：	第6学年の教材研究2-生物の体のつくりと働き, 生物と環境との関わり, 土地のつくりと変化, 月と太陽-
定期試験	単位認定試験を行う
テキスト	小学校学習指導要領解説(平成29年告示)理科編, 文部科学省, 東洋館出版社(2018) 森本信也・森藤義勝, 小学校理科教育法, 建帛社(2018)
参考書・参考資料等	小学校理科の観察, 実験の手引き, 文部科学省(2011)
学生に対する評価	講義内課題60%、単位認定試験40%

授業科目名: 生活科教育法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 相澤昭宏
				担当形態:単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 生活科の趣旨やねらいを理解し、低学年教育にとっての重要性を述べることができる。				
2. 生活科の歴史的経緯と背景について理解することができる。				
3. 具体的な活動や体験を重視した実践例から、気づきの質を高める指導の在り方を説明できる。				
4. 就学前教育と小学校教育のカリキュラムの連携の重要性について述べることができる。				
授業の概要				
新学習指導要領の趣旨やねらいを理解し、生活科誕生の歴史的経緯と背景、生活科を重視した教育の系譜を理解し、新しい学力観に立った「生活科」の授業の在り方を実践例から学び、理解を深められるよう授業を展開する。				
実務経験を活かした授業:学校現場における教員の経験を活かして、今日的な課題を取り上げて実践的な指導をする。(実務経験を活かした授業)				
授業計画				
第1回:生活科誕生の歴史的経緯と背景 「生活科の趣旨とねらいを理解する」				
第2回:学習指導要領の変遷と生活科 「現在の学習指導要領が求める生活科の学習の在り方を考える」				
第3回:生活科の目標 「生活科の目標と見方・考え方について学習指導要領を読み深め、理解を深める」				
第4回:生活科の内容構成① 「指導内容(1)～(3)の指導のポイントについて検討し、理解を深める」				
第5回:生活科の内容構成② 「指導内容(4)～(6)の指導のポイントについて検討し、理解を深める」				
第6回:生活科の内容構成③ 「指導内容(7)～(9)の指導のポイントについて検討し、理解を深める」				
第7回:生活科の学習指導の進め方 「実際の学習材をもとにして、子供の思いや願いを生かした単元構想の仕方について理解する」				
第8回:実践から学ぶⅠ 『動植物の飼育栽培』単元の指導案等をもとに実践事例を分析し、内容(7)について理				

	解を深める」
第9回：	実践から学ぶⅡ 『『季節の変化と生活』単元の指導案等をもとに実践事例を分析し、内容(5)について理解を深める」
第10回：	実践から学ぶⅢ 『『自然や物を使った遊び』単元の指導案等をもとに実践事例を分析し、内容(6)について理解を深める」
第11回：	就学前教育と小学校教育の接続の必要性 「アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムについて学ぶ」
第12回：	生活科の評価 「実践をもとに、活動を豊かにし気付きの質を高めるの評価の在り方を検討する」
第13回：	生活科と他教科等の関連 「生活科と総合的な学習の時間の関係や探究的な学びについて理解を深める」
第14回：	単元づくりと教材研究 「実践事例等について情報機器(ICT)を活用して情報収集し、それを参考にしながら実際に『動くおもちゃ』づくりを行い、学習指導のポイントを考察する」
第15回：	模擬授業(まとめ・評価) 「第14回の経験をもとに、『動くおもちゃ』の指導案(本時目標・本時課題・主な発問・予想される児童の反応・評価規準・指導上の留意点)を作成し模擬授業を行う」
定期試験	実施しない
テキスト	
小学校学習指導要領 解説(生活科編) 文部科学省	
参考書・参考資料等	
なし	
学生に対する評価	
課題提出80%、受講状況20%	

授業科目名: 音楽科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 後藤俊哉
			担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 小学校の音楽科の目標及び指導内容・方法、評価について理解する			
2. 授業を構成する教材についての理解を深める			
3. 授業実践事例の理解を通して、自分なりの授業の意図と構想をもつことができる			
4. 実技や模擬授業を想定した指導案作成などの実践を通して、指導のポイントを身につける			
授業の概要			
小学校音楽科の目標及び内容を理解し、各領域の指導方法や評価について学ぶ。また、実技や模 擬授業、指導案作成を通して、音楽科の授業を構成・展開する上で必要な基礎知識及び技能、指導 法を身につける。			
授業計画			
第1回:	オリエンテーション・小学校音楽科教育の概要		
第2回:	学習指導要領の概要と〔共通事項〕		
第3回:	指導内容 A表現「器楽」教材・指導研究 リコーダーの演奏の仕方と指導法		
第4回:	指導内容 A表現「器楽」教材研究と具体的な子供の姿を捉えた指導法と評価(ICTの活 用も含む)		
第5回:	指導内容 A表現「歌唱」教材・指導研究		
第6回:	指導内容 A表現「歌唱」教材研究と具体的な子供の姿を捉えた指導法と評価(ICTの活 用も含む)		
第7回:	指導内容 A表現「音楽づくり」教材研究と具体的な指導法		
第8回:	指導内容 A表現「音楽づくり」教材研究と具体的な子供の姿を捉えた指導法(ICTの活 用も含む)		
第9回:	指導内容 A表現「音楽づくり」教材研究と具体的な指導法 (ICTの活用も含む)と評価 「我が国や諸外国の音楽の特徴を生かした授業の在り方」		
第10回:	指導内容 B鑑賞「鑑賞」教材研究と具体的な子供の姿を捉えた指導法(ICTの活用も含 む) と評価		
第11回:	指導内容 B鑑賞「鑑賞」指導法(ICTの活用も含む)		
第12回:	A「表現」とB「鑑賞」を関連させた教材研究及び「学習指導案作成」		
第13回:	教材研究を生かした具体的な学習指導案の作成方法と模擬授業を伴う音楽科の学習評		

価（ICTの活用も含む）	
第14回：	音楽科で育む資質・能力を明確にした学習指導案の作成及び模擬授業
第15回：	音楽教育学の歴史的概観と音楽科教育法のまとめ 「今求められる授業」（模擬授業）【学習指導案提出】
定期試験	実施しない
テキスト	
新版 教員養成課程小学校音楽科教育法 有本真紀、阪井恵、津田正之編著 教育芸術社	
参考書・参考資料等	
小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）	
小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年6月 文部科学省）	
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 音楽】 （令和2年3月 国立教育政策研究所）	
学生に対する評価	
受講状況60%、課題提出（指導案等）40%	

授業科目名： 図画工作科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山成美穂
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 図画工作科の目的を理解し、授業計画を作成できるようになること			
2. 発達段階に応じた授業の工夫や、指導上の留意点について具体的な理解を深めること			
3. 図画工作科で使用される道具の基本的な知識と扱い方を学習すること			
授業の概要			
図画工作科における実践的な指導方法を、総合的に身につけることを目標とする。また、学習指導要領及び教科書の題材についての内容理解を深める。子どもの発達段階に応じ、個性を尊重することを考慮した年間指導計画と学習指導案を作成する能力を身につけ、図画工作科における成績評価のあり方について学習することを目指す。			
授業計画			
第1回：	ガイダンス、図画工作科の歴史		
第2回：	図画工作科教育の意義と目的		
第3回：	学習指導要領の理解－図画工作科の枠組み、目標		
	内容A表現「絵や立体・工作に表す」		
	内容A表現「造形遊び」		
	内容B鑑賞		
第4回：	多様な造形遊びと美術作品鑑賞の活動事例		
	：素材、空間、教材の工夫、コミュニケーションを活性化させるアート活動		
第5回：	図画工作科におけるICT活用		
	：発表会、鑑賞活動への応用		
	：表現の幅を広げる活動		
第6回：	指導案の作成について：題材設定と試案の作成		
	年間指導計画		
第7回：	図画工作科における評価の考え方		
第8回：	教材研究① 学年に応じた指導方法と題材の選定		
	模擬授業：1、2年生の「工作に表す」		
第9回：	教材研究② 学年に応じた指導方法と題材の選定		
	模擬授業：1、2年生の「造形遊び」		
第10回：	教材研究③ 学年に応じた指導方法と題材の選定		

	模擬授業：3、4年生の「ICTを活用した造形遊び」
第11回：	教材研究④ 学年に応じた指導方法と題材の選定 模擬授業：3、4年生の「絵に表す」
第12回：	教材研究⑤ 学年に応じた指導方法と題材の選定 模擬授業：5、6年生の「絵に表す」
第13回：	教材研究⑥ 学年に応じた指導方法と題材の選定 模擬授業：「鑑賞」
第14回：	図画工作科教育の指導方法について考える(1)様々な道具の扱い方と言葉がけの方法 「トントンギコギコ図工の時間(前編)」:視聴覚教材による学び
第15回：	図画工作科教育の指導方法について考える(2)図画工作科における卒業制作の役割 「トントンギコギコ図工の時間(後編)」:視聴覚教材による学び
定期試験	実施しない
テキスト	
小学校学習指導要領解説図画工作科編 文部科学省	
図画工作1・2年上 日本文教出版	
図画工作1・2年下 日本文教出版	
図画工作3・4年上 日本文教出版	
図画工作3・4年下 日本文教出版	
図画工作5・6年上 日本文教出版	
図画工作5・6年下 日本文教出版	
参考書・参考資料等	
小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)	
学生に対する評価	
授業内確認テスト70%、課題提出30%	

授業科目名: 家庭科教育法		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 佐藤陽子
				担当形態:単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 小学校学習指導要領(家庭)の目標及び内容, 指導計画, 学習評価について理解する。				
2. 家庭科室及び準備室の安全衛生管理と環境整備について理解する。				
3. 小学校第5学年から第6学年の家庭科で扱う学習内容を理解し, 学習指導案を構成する力と模擬授業を行う技能を習得する。				
授業の概要				
小学校学習指導要領(家庭)の目標及び内容, 指導計画, 学習評価, 学習環境整備の方法等を扱う。小学校第5学年から第6学年の家庭科の授業で扱う学習内容と教材について学び, 主体的・対話的で深い学びの実現が可能な学習指導案を構成する力と模擬授業を行う技能を育成する。				
授業計画				
第1回:	小学校家庭科の目標および内容構成			
第2回:	小学校家庭科の指導計画において留意すべき重点事項			
第3回:	小学校家庭科の学習評価			
第4回:	小学校家庭科の学習環境整備(家庭科室及び準備室・安全衛生管理, ICTの活用)			
第5回:	小学校家庭科における年間指導計画と題材指導計画の作成			
第6回:	第5学年の学習指導案の作成と模擬授業-学習指導案の内容構成と授業展開例, 学習指導案の作成, 模擬授業-			
第7回:	第6学年の学習指導案の作成と模擬授業-学習指導案の内容構成と授業展開, 学習指導案の作成, 模擬授業-			
第8回:	家族・家庭生活の授業における指導方法と教材研究-自分の成長と家族・家庭生活, 家庭生活と仕事, 家族や地域の人々との関わり-			
第9回:	食生活の授業における指導方法と教材研究-食事の役割, 調理の基礎, 日本の伝統的な日常食, 五大栄養素, 1食分の献立-			
第10回:	衣生活の授業における指導方法と教材研究-衣服の機能, 季節や状況に応じた日常着の快適な着方, 日常着の手入れ, 布を用いた製作-			
第11回:	住生活の授業における指導方法と教材研究-住まいの機能, 室内環境の調整, 住まいの管理-			
第12回:	消費生活・環境の授業における指導方法と教材研究-物や金銭の大切さ, 身近な物の選び方・買い方, 環境に配慮した選び方・使い方-			

第13回：	食生活の実験・実習・観察・調査について
第14回：	衣生活・住生活の実験・実習・調査について
第15回：	家族・家庭生活, 消費生活・環境の実習・観察・調査について
定期試験	単位認定試験を行う
テキスト	
大竹美登利・鈴木真由子・綿引伴子, 小学校家庭科教育法, 建帛社(2018)	
小学校学習指導要領解説(平成29年告示)家庭編, 文部科学省, 東洋館出版社(2018)	
参考書・参考資料等	
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 家庭(令和2年3月 文部科学省 国立教育政策研究所)東洋館出版社	
学生に対する評価	
講義内課題60%、単位認定試験40%	

授業科目名: 体育科教育法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 藤原昌太
			担当形態:単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 1. 学習指導要領をもとに小学校体育科の教育目標、内容について理解する。 2. 児童が主体的かつ意欲的に学習を行うための基礎的な指導理論を理解する。 3. 授業設計ならびに学習指導案の作成方法を理解する。			
授業の概要 小学校学習指導要領の目標および内容、育成を目指す資質・能力について理解する。児童の健康状態を把握し安全で楽しく相互に協力して運動に取り組む姿勢を育むための指導理論について学ぶとともに、体育的行事を含めた児童の運動や健康に関する知見を深めていく。また、主体的・対話的で深い学びができる指導理論について学ぶ。さらにそれらの指導理論をふまえた単元計画、授業設計、教材研究を行い、学習指導案作成・模擬授業を行う。			
授業計画			
第1回: 免許制度、「体育」の概念の変遷及び体育授業の目標 第2回: 運動領域の構成と年間計画 第3回: 単元構想と単元の学習評価の計画 第4回: 子どもの視点からみたい体育授業とは、よい体育授業の条件、体育のICTの活用 第5回: 子どもの体力、現状 第6回: 各運動領域の教育内容と教材研究「体づくり運動系領域」 第7回: 各運動領域の教育内容と教材研究「器械運動系領域」 第8回: 各運動領域の教育内容と教材研究「陸上運動系領域」 第9回: 各運動領域の教育内容と教材研究「水泳運動系領域」 第10回: 各運動領域の教育内容と教材研究「ボール運動系領域」 第11回: 各運動領域の教育内容と教材研究「表現運動系領域」 第12回: 保健領域の構成と年間計画 第13回: 保健の現状、よい保健授業とは 第14回: 保健の教材論、保健の教材研究、学習指導案作成 第15回: 学習指導案作成と模擬授業実施及びリフレクション 定期試験 実施しない			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

文部科学省ホームページ 指導資料集 運動領域デジタル教材

文部科学省ホームページ 指導資料第4集、第9集、第8集、第7集、第10集

文部科学省ホームページ 小学校体育(運動領域)まるわかりハンドブック 低学年、中学年、高学年

小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)

小学校学習指導要領解説 体育編(平成29年7月 文部科学省)

学生に対する評価

レポート課題20%、確認テスト40%、学習指導案作成・模擬授業リフレクション30%

授業科目名: 小学校英語教育法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 桐生直幸
				担当形態:単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 小学校英語教育の理論的背景や学習指導要領(外国語活動・外国語)について必要な知識を身に付ける。				
2. 外国語活動及び外国語の指導技術を習得し、学習到達目標に基づいた指導計画が作成できる。				
3. 児童の発達段階による違いを踏まえて、適切な教材を選定して模擬授業を行うことができる。				
授業の概要				
小学校における外国語活動(中学年)・外国語(高学年)の指導方法や評価について理解を深め、学習到達目標に基づいた指導計画を考えるなど授業づくりに必要な知識・技術を身に付けられるよう授業を展開する。本授業では、各学年の学習内容に応じて授業を展開できるよう、言語活動を通した指導技術を磨くとともに、児童の発達段階に応じた指導の工夫を考えるなど実践的な英語指導力を身に付ける。				
授業計画				
第1回:	ガイダンス、小学校英語教育の意義、小学校英語教育導入の経緯			
第2回:	学習指導要領(外国語活動・外国語の目標と内容)、小・中連携のあり方			
第3回:	題材の選定と教材研究、外国語活動に適した教材、補助教材 “Let’s Try!”の活用			
第4回:	教科書の活用、ICT・デジタル教材の活用			
第5回:	基本的な外国語教授法、発表活動の指導、ことばへの気づき			
第6回:	指導計画と到達目標、小学校英語教育の現状			
第7回:	児童・学校の多様性への対応(特別支援を含む)、音声によるインプット			
第8回:	音声指導と文字指導、読む活動・書く活動への導き方			
第9回:	ALT等とのティーム・ティーチング、他教科との連携			
第10回:	コミュニケーションを行う目的や場面、状況を意識した言語活動			
第11回:	パフォーマンス評価とルーブリックの作成			
第12回:	授業観察:外国語活動の指導と評価			
第13回:	授業観察:外国語の指導と評価			
第14回:	指導計画の書き方と留意点、指導計画の作成			
第15回:	学習指導案の書き方と留意点、学習指導案の作成			
定期試験	模擬授業(動画提出)			
テキスト				

小学校英語 はじめる教科書 改訂版(小川隆夫・東仁美著、mpi)

参考書・参考資料等

英語が好きな子供を育てる魔法のタスク(佐藤一嘉・矢後智子著、名古屋外国語大学出版会)

小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)

小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編(平成29年7月 文部科学省)

学生に対する評価

模擬授業40%、指導計画の作成30%、課題提出30%

授業科目名: 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 千々松愛子
			担当形態:単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 日本国憲法についての基礎知識を習得することができる。 2. 身近な問題と憲法を関連づけて説明できる。			
授業の概要			
この講義では、我が国の最高法規である憲法の基本的枠組みを理解した上で、憲法が我々の生活にどのように結びついているのかを様々な事例を通して学ぶ。国の仕組みおよび人権保障を中心に、時事問題も取り上げながら、憲法についての理解を深める。			
授業計画			
第1回: ガイダンス:授業の進め方 第2回: 憲法とは何か 第3回: 平和主義 第4回: 国会 第5回: 内閣 第6回: 裁判所 第7回: 地方自治 第8回: 人権の歴史と新しい人権 第9回: 基本的人権の主体と限界 第10回: 法の下での平等 第11回: 精神的自由権 第12回: 経済的自由権 第13回: 社会権 第14回: 参政権 第15回: まとめ 定期試験: 実施しない			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
『ポケット六法 令和6年版』(有斐閣、2023年)			
学生に対する評価			

授業終了後の確認テストで評価する100%

授業科目名: 健康・スポーツ科学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 1単位	担当教員名: 榎本至
				担当形態:単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・体育		
授業のテーマ及び到達目標				
1. スポーツにおける健康科学的な諸問題に対して適切に判断できるようになる。				
2. スポーツ関連諸科学の知見を根拠として、健康維持増進のために必要なスポーツプログラムを立案 できるようになる。				
授業の概要				
現代社会における、健康管理とスポーツ・運動実践の関連性、及びその意義と必要性について、ス ポーツ科学と健康科学の最新トピックを用いて解説を行う。現代人にとって不可欠であるスポーツ活動 と健康管理について、多面的な視点による理解の促進と、得られた知識を活用した批判的な思考力の 醸成を目的とする。				
授業計画				
第1回: スポーツと健康を取り巻く諸問題の概観				
第2回: メタボリックシンドロームの概要と課題				
第3回: 消費エネルギーと摂取エネルギーのバランス				
第4回: 有酸素運動の概要と代謝のメカニズム				
第5回: 有酸素能力の向上を目的とした運動プログラム				
第6回: 筋肉の構造と筋収縮のメカニズム				
第7回: 筋力の向上を目的とした運動プログラム				
第8回: 健康・スポーツに関連する身体諸能力の定量				
定期試験 実施しない				
テキスト				
独自作成による資料の配布				
参考書・参考資料等				
授業時に参考資料一覧を提供				
学生に対する評価				
受講状況(オンデマンド課題視聴後の確認テスト)80%、レポート課題 20%				

授業科目名: スポーツ実技	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 1単位	担当教員名: 西島大祐
			担当形態:単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 運動種目の特性を理解し、楽しみながら運動を実践できる。			
2. 自己の体力を評価して運動プログラムを計画・実践し、習慣化することができる。			
授業の概要			
生涯を通してスポーツに親しむ資質や能力を培うとともに、健康な体づくりを実践する。運動種目に 取り組むことで、運動特性を理解し、体を動かす楽しさを知る。本授業科目はすべてオンデマンドで行 われる。			
授業計画			
第1回: ガイダンス、運動機能テスト			
第2回: ストレッチ			
第3回: 有酸素運動①:歩行・走行と心拍数計測			
第4回: 有酸素運動①:階段や坂を使った運動			
第5回: 身近な場所でのハイキング			
第6回: レジスタンス運動①:運動の実際			
第7回: レジスタンス運動①:運動の継続			
第8回: 選択したスポーツ種目の実施			
定期試験 実施しない			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
佐藤洋編『スポーツ健康科学』みらい、ISBN:978-4-86015-580-3			
学生に対する評価			
授業内試験(習熟度確認テスト)50%、受講状況30%、課題提出20%			

授業科目名: 英語	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 太田一郎
			担当形態:単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 幼児教育や日常生活に関わる英語表現を習得する。			
2. 英語学習4技能のうち「読む・聴く」に焦点をあて基礎的運用能力を獲得する。			
授業の概要			
身近なトピックを題材とする英文を読み、それに関する演習を行うことを通して、英語表現上の基礎知識、関連語彙の習得を図る。英文読解に重要な基礎的な英文法、英文構造、表現技法などについては、大学以前の英語学習の内容にさかのぼって説明を行うこともある。			
授業計画			
第1回:	Introduction 短期大学部e-learningでの英語学習について		
第2回:	1 In Your Free Time p2～3 (Listening) 日常生活:基本的な数字の聞き取り		
第3回:	1 In Your Free Time p4～5 (Reading) 日常生活:be 動詞と一般動詞		
第4回:	2 Communication Skills p6～7 (Listening) 人間関係・コミュニケーション:時間・日付・年号の聞き取り		
第5回:	2 Communication Skills p8～9 (Reading) 人間関係・コミュニケーション:代名詞		
第6回:	3 World Languages and Cultures p10～11 (Listening) 言葉・文化:聞き分けにくい音の聞き取り		
第7回:	3 World Languages and Cultures p12～13 (Reading) 言葉・文化:否定文		
第8回:	Test 復習及び授業内試験①		
第9回:	4 Healthy Body, Healthy Mind p14～15 (Listening) 健康・医療:カタカナ語とのギャップ		
第10回:	4 Healthy Body, Healthy Mind p16～17 (Reading) 健康・医療:疑問文の基本		
第11回:	5 Careers Nowadays p18～19 (Listening) 職業・キャリア:短縮形の聞き取り		
第12回:	5 Careers Nowadays p20～21 (Reading) 職業・キャリア:過去形の基本		
第13回:	6 Fashion Trends p22～23 (Listening) ファッション:つながる音		
第14回:	6 Fashion Trends p24～25 (Reading) ファッション:進行形の基本		
第15回:	Test 復習及び授業内試験②		
定期試験	実施しない		
テキスト			
TARGET! Elementary 森田彰・飯尾牧子ほか 金星堂			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業内試験(①、②)60%、受講状況(授業後確認小テスト)30%、課題提出10%(提出必須)

授業科目名: 英語コミュニケーション	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名:太田一郎 担当形態:単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 保育英語の基礎力を身につけ、外国籍の幼児に英語で声掛けができる力を養う。 2. 幼児の様子や行動を観察し、場面に適した躰・指導を英語でできるようにする。			
授業の概要			
幼児教育、特に保育園や幼稚園で使われる英語表現を扱ったテキストを通して、英語コミュニケーションの基礎表現や関連語彙の習得を図る。また、様々な工夫をしたアクティビティを英語で学習・展開することで、子どもたちの英語に対する興味を引き出し、英語に慣れ親しむ環境づくりを試みる。			
授業計画			
第1回:	Introduction to class 短期大学部 e-learning 英語コミュニケーションについて		
第2回:	1. What's your name? p6～8 名前の尋ね方と答え方		
第3回:	1. What's your name? p9～11 自己紹介と学用品		
第4回:	2. Where are you from? p12～14 国籍と言語の基本単語		
第5回:	2. Where are you from? p15～17 出身地の尋ね方と答え方		
第6回:	3. Good morning! p18～20 朝の挨拶と短い会話		
第7回:	3. Good morning! p21～23 朝の会話の展開(頻度を問う表現) (p24/25省略)		
第8回:	Test 復習及び授業内試験①		
第9回:	4. Are you OK? p26～28 体調を心配する尋ね方		
第10回:	4. Are you OK? p29～31 体調・病状の表現と医療に関する単語		
第11回:	5. What are you doing? p32～35 子どもたちへの声がけ		
第12回:	5. What are you doing? p36～37 子どもたちがしていることを表す表現		
第13回:	6. How are you feeling? p38～41 感情を問う表現		
第14回:	6. How are you feeling? p42～45 感情を表す表現		
第15回:	Test 復習及び授業内試験②		
定期試験	実施しない		
テキスト			
Speaking of Childcare Peter Vincent, Naoko Nakazato 南雲堂			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
授業内試験(①、②)60%、受講状況(授業後確認小テスト)30%、課題提出(提出必須)10%			

授業科目名: 情報リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 杉浦学
			担当形態:単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 情報機器を文書作成と表計算に活用できる。 2. 社会におけるデータ・AIの利活用について説明できる。 3. データ・AIの利活用における留意事項について説明できる。			
授業の概要			
情報機器の操作に関する演習と、データ・AI(人工知能)活用に関する講義を行います。演習では、文字入力やファイル操作などの情報機器の基本操作と、情報機器を文書作成と表計算に活用するためのスキルを身につけます。講義では、データ・AIの利活用がどのように社会を変化させているか、データ・AIの利活用に関する技術や最新動向などを学びます。また、データ・AIを扱う上での様々な留意事項を解説し、データを守るための原則と方法も学びます。			
授業計画			
第1回: パソコンの基本操作／演習の準備			
第2回: Wordによる文書作成(1)基本と入力操作			
第3回: Wordによる文書作成(2)書式設定			
第4回: Wordによる文書作成(3)表の作成			
第5回: Wordによる文書作成(4)グラフィック要素			
第6回: Excelによる表計算(1)基本とセル操作			
第7回: Excelによる表計算(2)表の作成と編集			
第8回: Excelによる表計算(3)数式と参照			
第9回: Excelによる表計算(4)グラフ機能と素材の挿入			
第10回: Excelによる表計算(5)関数			
第11回: データ・AI活用(1)社会で起きている変化／社会で活用されているデータ			
第12回: データ・AI活用(2)データ・AIの活用領域／データ・AI利活用のための技術			
第13回: データ・AI活用(3)データ・AI利活用の現場／データ・AI利活用の最新動向			
第14回: データ・AI活用(4)データ・AIを扱う上での留意事項／データを守る上での留意事項			
第15回: まとめ			
定期試験 実施する			
テキスト			
学生のためのかんたんWord/Excel/PowerPoint入門 松下孝太郎・山本光・榎村麻里子・津木裕子・			

平井智子・両澤敦子 技術評論社 特製版 AIリテラシー入門 吉岡剛志・森倉悠介・小林領・照屋健作 技術評論社
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 定期試験60%、受講状況(確認テスト)40%

授業科目名: 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 中島朋紀 担当形態:単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教職に就く上で必須となる教育上の原理的な考え方を理解することができる。 2. 教育原理上の基礎的な知識を理解し、教育課題・問題の具体的解決に関係づけ、その重要事項について自己の思考・考えが述べられ説明することができる。			
授業の概要			
教育活動に携わる者としての見識を高めるために、人間と教育について原理的な視点から探究する。本科目「教育原理」は、本学科(教育学領域)の主要科目であり、教職科目の総論的な科目である。授業では、人間の生涯にとって教育がどのような意味をもつかについて考察し、基本的な教育学的知見について学ぶ。教育の理念・目的・目標、思想、歴史を中心に教育一般に関する原理的な理解を目指す。			
授業計画			
第1回: 教育の本質と意義について 第2回: 教育と発達との関わり 第3回: 教育理念の意義について 第4回: 理想の人間像の変遷1:西洋古代・中世における教育思想 第5回: 理想の人間像の変遷2:西洋近世・近代における教育思想 第6回: 理想の人間像の変遷3:西洋近代(前期)の人間像と教育思想 第7回: 理想の人間像の変遷4:西洋近代(後期)の人間像と教育思想 第8回: 理想の人間像の変遷5:現代の人間像と教育思想 第9回: 教育課程の意義と編成原理 第10回: 家庭と教育との関係について 第11回: 学校教育の目的と目標1:教育内容について 第12回: 学校教育の目的と目標2:課題と展望について 第13回: 教育的関係の構築 第14回: 子どもの社会性の育成 第15回: 人権と教育 定期試験 実施しない			
テキスト			
新版 教育原理(コンパクト版保育者養成シリーズ)(平成28年3月) 石橋哲成編著 一藝社			

改訂版 教職用語辞典(2019年7月). 橋本美保監修 一藝社

参考書・参考資料等

保育所保育指針(平成29年3月公示 厚生労働省)

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省)

小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)

学生に対する評価

授業内試験40%、受講状況30%、課題提出・発表30%

授業科目名: 教職概論(同和教育を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 後藤俊哉 担当形態:単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教育理念、指導観、子ども観などを考察し、教師としての姿勢や心構え、態度を身に付けることができる。			
2. 学校組織を理解し教育の今日的課題を整理し、改善の方途を考え例示することができる。			
3. 教師としての将来像を明確化し、論述することができる。			
授業の概要			
教育の目的や服務等について、法令や関係資料から読み取るとともに、現場の状況や実践事例に基づいて理解を深める。また、今日的な教育課題を分析し、求められる教師像を考察する。さらに、教師としての自分の将来像や取り組み課題を明確化する。(実務経験を活かした授業)			
授業計画			
第1回: 教育の目的「教職概論を学ぶ意味を考える」(レポート提出)			
第2回: 教職とは何か「教師の使命について考察する」			
第3回: 教師の仕事「幼稚園・小学校の教師の仕事の実際を知る」			
第4回: 教師の仕事「教育相談・学級経営等の在り方を検討する」			
第5回: 教師の仕事「保育・教育・学習指導の基本を知る」			
第6回: 教師に求められるもの「教師に求められる資質・能力を考える」			
第7回: 教師に求められるもの「教員の研修と研究について知る」			
第8回: 教員の地位と身分「服務と権利・身分上の義務について知る」			
第9回: 学校の種類「様々な学校の種類や義務教育について知る」			
第10回: 学校の管理・運営「学校の組織と校務分掌について理解する」			
第11回: 保護者・地域との連携「保護者や地域と連携して子どもを育てる意義について考える」			
第12回: 学校・幼稚園が果たす人権・同和教育の現状と課題を知り、その重要性を認識する。			
【授業内試験】			
第13回: 学校安全・学校保健・学校給食「学校の安全や保健、給食に関する配慮事項を整理する」			
第14回: 幼保小連携「幼保小連携の実際とその意義について考察する」			
第15回: 求められる教師像について論述する。【授業内試験】			
定期試験 実施しない			
テキスト			
「実践 教職論」近藤昭一著 ナカニシヤ出版 2021年3月			

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省)

小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)

小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年6月 文部科学省)

学生に対する評価

課題提出50%、授業内試験30%、発表・受講状況20%

授業科目名: 教育制度	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 相澤昭宏
			担当形態:単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 国内外の学校制度について、歴史的特質と法制度にもとづく現状を説明できる。			
2. 教職員に求められる学校・学級運営を、地域連携や学校安全の視点をふまえて理解できる。			
3. 社会教育と教育行政、また児童福祉との関連について、現状を説明できる。			
授業の概要			
教育制度の基本的事項を学ぶ。国内外の歴史・現状および制度を取り巻く社会的状況をとらえる。具体的には学校教育、社会教育、学校・学級経営、教職員制度、教育行財政、教育課程行政、地域連携、学校安全・保健を扱う。また基礎をふまえて児童福祉との連携例や時事問題を扱い、発展的に学ぶ。(実務経験を活かした授業)			
授業計画			
第1回:	教育制度のすがた:基礎事項の理解と学習方法		
第2回:	学校教育と教育法規		
第3回:	現代日本の義務教育制度		
第4回:	さまざまな義務就学のすがた		
第5回:	後期中等教育と高等教育		
第6回:	幼稚園と幼児教育の制度		
第7回:	社会教育と生涯学習推進行政		
第8回:	国と地方の教育行財政		
第9回:	教職員の制度		
第10回:	学校経営・学級経営と児童生徒の管理		
第11回:	教育課程と教科書・教材		
第12回:	学校安全・学校保健・学校給食		
第13回:	児童福祉と教育:保育、放課後、家庭教育		
第14回:	地域連携と学校評価		
第15回:	これからの学校教育・まとめ(テスト)		
定期試験	実施しない		
テキスト			
生涯学習時代の教育制度 梨本加菜 樹村房			
参考書・参考資料等			

教育小六法 学陽書房

文部科学白書 文部科学省

学生に対する評価

テスト 70%、受講状況 30%

授業科目名: 発達心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 深谷(小林)博子 細野(瀬戸)美幸 担当形態:クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 幼児、児童および生徒の心身の発達の過程および特徴を理解する。 ①幼児、児童および生徒の心身の発達に対する外的および内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論をふまえ、発達の概念および教育における発達理解の意義を理解している。 ②乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 2. 幼児、児童および生徒の学習に関する基礎的知識を身につけ、発達をふまえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。 ①様々な学習の形態や概念およびその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 ②主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 ③幼児、児童および生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。			
授業の概要			
発達心理学は、人間の発達過程を心理学的観点から明らかにする学問です。またそれぞれの発達段階において子どもたちがどのように様々なことを学んでいくかという学習の過程に関する理論も提示します。この授業では、乳幼児期からはじめて、老年期に至るまで、それぞれの時期で重要な事柄について紹介していきます。また、教育・保育に携わる者にとって極めて大切である子どもたちの学びをどのように支えていけばよいかについても学んでいきます。			
授業計画			
第1回: 発達心理学とは何か			
第2回: 乳幼児期の発達(運動機能)			
第3回: 乳幼児期の発達(記憶の発達)			
第4回: 乳幼児期の発達(心の理論)			
第5回: 乳幼児期の発達(ピアジェ理論)			
第6回: 乳幼児期の発達(感情と自己)			
第7回: 乳幼児期の発達(ことば)			
第8回: 乳幼児期の発達(社会性)			

第9回:	児童期の発達(学校適応)
第10回:	児童期の発達(自尊心、発達課題)
第11回:	青年期の発達(友人関係やアイデンティティの問題を中心に)
第12回:	子どもたちの学習過程を説明する諸理論
第13回:	集団の中で学ぶ子ども
第14回:	動機づけと学習評価の在り方について
第15回:	子どもたちの主体的な学びをどのように支えていくか
定期試験	実施しない
テキスト	
発達心理学 無藤隆・中坪史典・西山修 ミネルヴァ書房	
参考書・参考資料等	
子どもも育つおとなも育つ 発達の心理学 柏木恵子 萌文書林	
幼稚園教育要領(平成29年公示 文部科学省)	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月公示 内閣府 文部科学省 厚生労働省)	
保育所保育指針(平成29年3月公示 厚生労働省)	
小学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省)・小学校学習指導要領解説総則編(平成29年6月 文部科学省)	
学生に対する評価	
授業内試験50%、受講状況30%、課題提出20%	

授業科目名: 教育心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2単位	担当教員名: 遠山孝司
			担当形態:単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教育心理学について理解している 2. 動機づけの心理学について理解している 3. 記憶の心理学について理解している 4. 乳幼児期, 児童期, 青年期の認知発達について理解している 5. 教育評価について理解している			
授業の概要			
教育場面の問題を心理学的な見地から解釈するために, 教育にかかわる心理学の基礎知識を習得する。 学習心理学, 動機づけ, 子どもの認知発達, 記憶心理学, 教育評価についての知識を習得し, 教育を進めるために役立つ知見や方法を学習する。 また, 教育心理学に関する調査研究をもとに, 日常場面での心理学的な知識をイメージできるようになり, 今日の教育を取り巻く諸問題について考察する力を身につける。			
授業計画			
第1回: ガイダンス なぜ教育心理学を学ぶのか？ 第2回: 学習心理学① 学習とは？ 古典的条件づけ 第3回: 学習心理学② オペラント条件づけ 第4回: 学習心理学③ 観察学習 第5回: 動機づけ① 動機づけの基礎 第6回: 動機づけ② 原因帰属 内発的・外発的動づけ 学習を妨げる動機づけ 第7回: 動機づけ③ 動機づけの応用 自己効力感 第8回: 動機づけまとめ 第9回: 子どもの認知発達① ピアジェの発達理論 第10回: 子どもの認知発達② 実践場面への応用 第11回: 記憶心理学① 記憶の基礎 短期記憶 第12回: 記憶心理学② 長期記憶 効果的な記憶法 第13回: 教育評価① 教育評価とその分類 第14回: 教育評価② 適正な教育評価のために 第15回: 教育評価③ 教育評価から考える教育の改善			

定期試験	テストまたはレポートを実施する
テキスト	
絶対役立つ教育心理学	藤田哲也編著 ミネルヴァ書房
参考書・参考資料等	
なし	
学生に対する評価	
定期試験80%、小テスト20%	

授業科目名: 特別支援教育		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 1単位	担当教員名: 佐藤雅己
				担当形態:単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標				
1. インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の理念や制度、障害のある子どもの就学のしくみや教育課程等の概要について説明できる。				
2. 注意欠如・多動症、学習障害、自閉スペクトラム症、情緒障害、言語障害等のある幼児児童生徒の特性、実態及び配慮事項について説明できる。				
3. 特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒に対し、他職種や関係諸機関等と適切に連携した指導・支援の在り方について説明できる。				
授業の概要				
障害の有無にかかわらず特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒に対し、他職種や関係機関等と適切に連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学べるよう、実践的事例を交えながら授業を展開する。具体的には、特別支援教育の理念や制度、障害のある子どもの就学のしくみ等の理解を図った上で、通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等のある幼児・児童・生徒の特性、実態及び配慮事項や、障害はないが外国につながる、貧困等の特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒について学びを深める。 (実務経験を活かした授業)				
授業計画				
第1回: 特別支援教育の理念と制度				
第2回: 多様な学びの場①(小中学校における特別支援教育の仕組み)				
第3回: 多様な学びの場②(特別支援学級や通級による指導の仕組みとその実際)				
第4回: 多様な学びの場③(特別支援学校における教育の仕組みとその実際)				
第5回: 就学まで(幼児教育段階)の支援の仕組みとその実際 視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、知的障害のある児童生徒の理解と支援				
第6回: 注意欠如・多動症や学習障害のある児童生徒の理解と支援				
第7回: 自閉スペクトラム症や情緒障害のある児童生徒の理解と支援				
第8回: 言語障害、外国につながる、貧困等の支援ニーズのある児童生徒の理解と支援				
定期試験 実施しない				
テキスト				
インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門(第2版) 大塚玲 萌文書林				

参考書・参考資料等

学校教育法施行規則 第三章～第八章、別表第一、別表第二

特別支援学校幼稚部教育要領(平成29年4月告示 文部科学省)

特別支援学校小学部中学部学習指導要領(平成29年4月告示 文部科学省)/特別支援学校高等部
学習指導要領(文部科学省)

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省)

小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)

小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年6月 文部科学省)

学生に対する評価

レポート試験70%、受講状況30%

授業科目名: カリキュラム論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 上田陽子 担当形態:単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針等に基づく教育課程の編成及び全体的な計画の作成の意義とその基礎を理解する。			
2. 教育課程及び全体的な計画と指導計画の関係について理解をする。			
3. 指導計画の作成について具体的に理解し、書き方の基礎を習得する。			
4. 保育の計画、実践、省察、改善の過程を捉えるとともに、カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。			
授業の概要			
教育課程・全体的な計画の意義や編成にあたっての基本的な考え方を理解するとともに、指導計画の作成における具体的な方法について学ぶ。また、保育の計画、実践、省察、改善の過程についても取り上げながら、カリキュラム・マネジメントによる保育の質の向上についての理解が深められるようにする。就学前と小学校の教育をつなぐカリキュラムや、要録の実際について学ぶ。			
授業計画			
第1回: 保育の基本と計画-カリキュラムとは-			
第2回: 教育課程・全体的な計画と指導計画			
第3回: 幼稚園における保育と計画			
第4回: 保育所における保育と計画			
授業の後半で、第1回～第4回までの小テストを実施する。			
第5回: 指導計画作成の基本① -指導計画の形式と作成手順-			
第6回: 指導計画作成の基本② -指導計画の作成方法-			
第7回: 各年齢における保育の特徴と指導計画			
第8回: 指導案の作成① -ねらいと内容を考える-			
第9回: 指導案の作成② -保育者の援助等を考える-			
第10回: 各自が作成した指導案の評価・改善			
第11回: 幼児理解と保育者の援助、評価の基準			
第12回: 保育における指導計画と記録・評価とカリキュラム・マネジメント			
第13回: 幼保小連携とスタートカリキュラム			
第14回: 「幼稚園幼児指導要領」「保育所児童保育要領」「幼保連携型認定こども園園児指導要録」の意義と実際			

授業の後半で、第11回～13回までの小テストを実施する。	
第15回：	まとめと総括(模擬保育)
定期試験	実施しない
テキスト	
新・保育の計画と評価 教育情報出版	
参考書・参考資料等	
『幼稚園教育要領』文部科学省(平成29年3月告示)	
『保育所保育指針』厚生労働省(平成29年3月告示)	
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府, 文部科学省, 厚生労働省(平成29年3月告示)	
『教育課程・保育の計画と評価』岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正, 萌文書林, 2018	
学生に対する評価	
授業内試験50%、課題提出30%、受講状況20%	

授業科目名: 教育方法・技術(情報通信技術の活用を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 小島淳子 担当形態:単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
1. これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 2. そのために必要な教育の方法、技術等を理解し、実践するための基礎的な力を身につける。 3. ICT(情報通信技術)を効果的に活用した学習指導の基礎的なスキルとともに、子どもたちの情報活用能力を育成するための指導法を身につける。			
授業の概要			
子どもたちの資質・能力を育成するために、授業などの教育活動において必要な基本的な方法を理解するとともに、それらを実践するための基礎的な力を身に付ける。また、授業などの教育活動において、ICT活用による効果を理解した上で、実際にデジタル教材等を活用しつつ、子どもたちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的なスキルを身につける。			
授業計画			
第1回:	科目ガイダンス、育てたい子ども像と教育方法		
第2回:	幼児教育のあり方		
第3回:	子どもが主体となる学習のあり方		
第4回:	授業における基本的な技術		
第5回:	様々な教育方法		
第6回:	教育の情報化		
第7回:	教育の情報化を支える基盤		
第8回:	教科等の指導におけるデジタル教材の活用		
第9回:	幼児教育におけるICTの活用		
第10回:	探究的な学びを活かすICT活用		
第11回:	遠隔・オンライン教育の意義と活用		
第12回:	特別支援教育におけるICTの活用		
第13回:	カリキュラム・マネジメントの視点を持った年間指導計画の作成		
第14回:	評価規準を意識した単元計画の作成		
第15回:	学習評価		

定期試験	期末に単位認定試験(テスト)を実施する。
テキスト	
なし	
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 学習評価の在り方ハンドブック(小学校編)(令和元年6月 国立教育政策研究所) 教育の情報化に関する手引ー追補版ー(令和2年6月 文部科学省)
学生に対する評価	単位認定試験(テスト)100%

授業科目名： 幼児指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小泉裕子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・幼児理解の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 幼児理解の意義と原理			
1) 幼児理解の意義を理解している。			
2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。			
3) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。			
2. 幼児理解の方法			
1) 観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。			
2) 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。			
3) 幼児のつまずきの様子を周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。			
4) 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。			
授業の概要			
幼児理解は、教師が実践を行う際のあらゆる営みの基本となる姿勢である。授業では、幼児理解の意義や原理を学び、幼稚園における映像資料や事例研究を通して、具体的な幼児の姿を理解していく。また幼児理解の目的に応じて、環境図、エピソード記録、ポートフォリオ、ドキュメンテーション等ヴィジブルな保育記録等の作成方法を学び、幼児理解の道筋や根拠について確認しながら保育者の幼児理解力を学修する。さらに教師の適切な幼児理解の姿勢(個と集団を捉える意義、つまずきの背景を知る等)に基づき、保護者との連携を視野に入れ、一人一人の子どもの発達状況に応じた指導を行うことの重要性を学ぶ。			
授業計画			
第1回：	法令や統計資料等から、幼児の発達や子育て支援に関わる現代的課題を学ぶ		
第2回：	幼児理解に基づく援助・指導の理論、カウンセリングマインド等の姿勢や技法の重要性を学ぶ		
第3回：	幼稚園教育要領の「ねらい」と幼稚園教育において「育みたい資質・能力」を理解する		
第4回：	発達や学びを捉える視点としての「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解する		
第5回：	入園期・進級期のつまずきの様子等の具体的な事例から幼児理解の過程について学ぶ		
第6回：	「いざこざ、ケンカ」等の具体的な事例から幼児の内面を捉える視点と重要性を学ぶ		
第7回：	「遊びの深まり」の具体的事例から、幼児の内面の理解と教師の援助の関係性を学ぶ		
第8回：	「配慮の必要な子ども」の事例から、教師の対応の工夫を学ぶ		
第9回：	幼児理解の方法として目的に応じた様々な保育記録や評価法を学ぶ		

第10回：	映像事例を基に、エピソード記録、ドキュメンテーションを工夫して作成する
第11回：	映像事例を基に、日本版ラーニングストーリーを作成しその成果をビデオ発表する
第12回：	保育(自由遊び、一斉保育)の映像を通して、幼児理解に基づく指導案作成の基本を学ぶ
第13回：	模擬保育の指導案を作成し、幼児理解に基づく幼児指導のイメージを修得する
第14回：	模擬保育を実践(ビデオ録画)し、受講生同士で成果や課題をディスカッションする
第15回：	保育における幼児理解の重要性と家庭・地域の専門機関との連携の意義を整理する
定期試験	単位認定試験を実施する
テキスト	
写真とコメントを使って伝える ヴィジブルな保育記録のススメ 小泉裕子 佐藤康富 2017	
参考書・参考資料等	
幼稚園教育要領解説 (平成29年告示 文部科学省)	
学生に対する評価	
① 1回の授業ごとの確認テストを受験すること 10%	
② 課題(日本版ラーニングストーリー作成、模擬保育指導案作成、模擬保育実践ビデオの作成)を提出すること 40%	
③ 単位認定試験を受験し、合格点をとること 50%	

授業科目名: 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 石川満佐育
			担当形態:単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 学校における教育相談の意義と理論を説明できる。			
2. 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を説明できる。			
3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を説明できる。			
授業の概要			
教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。本授業では、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を学ぶことが主眼となる。			
授業計画			
第1回:	教育相談の意義:生徒指導提要における教育相談		
第2回:	教育相談を支える理論: 学校心理学の観点から		
第3回:	援助者に求められるカウンセリングマインド		
第4回:	チーム支援と関係機関との連携		
第5回:	児童生徒理解:アセスメント①(個人のアセスメント)		
第6回:	児童生徒理解:アセスメント②(環境のアセスメント)		
第7回:	カウンセリングの基礎的な姿勢と技法		
第8回:	開発的・予防的カウンセリング		
第9回:	保護者支援(コンサルテーション)		
第10回:	保護者支援の実際		
第11回:	不登校の理解(制度と現状, 支援の実際)		
第12回:	いじめの理解(制度と現状)		
第13回:	いじめの理解(予防と対応)		
第14回:	多様な背景をもつ幼児児童生徒への支援		
第15回:	まとめ:これからの教育相談		
定期試験	実施する		

テキスト

生徒指導提要(改訂版)(文部科学省 東洋館出版社)

参考書・参考資料等

『実践につながる教育相談』北樹出版 ISBN 4779304075

学生に対する評価

試験50%、受講状況30%、課題提出20%

授業科目名: カリキュラム論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 中島朋紀 担当形態:単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教育課程の意義と編成のあり方についての理解し、小学校の教育課程を説明できる。 2. 教育課程編成のための基礎的な能力や方法原理・評価方法を習得し、教職に携わる一員としてよりよいカリキュラムづくりに協調できる態度を身につける。			
授業の概要			
教育の現場では、教師に教育課程(カリキュラム)のデザイン力や各学校の創意工夫が求められる時代になってきている。授業では、小学校教育におけるカリキュラムや小学校学習指導要領に基づく基本的な知識を学ぶとともに、確かな教育理念や原理を具現化する教育課程の編成や教育活動の取り組みについて考える。			
授業計画			
第1回: 教育課程(カリキュラム)の歴史と意義			
第2回: 教育課程の類型、顕在的カリキュラム、潜在的カリキュラムについて			
第3回: 小学校教育課程の編成と方法原理			
第4回: 教育課程編成の基本課題1:教科、特別活動、道徳、外国語活動			
第5回: 教育課程編成の基本課題2:幼・小・中連携のカリキュラム			
第6回: 教育課程編成の基本課題3:情報化、環境教育、国際理解教育、人権教育			
第7回: 子どもの学力形成と教科教育の課題			
第8回: 教育課程全体の道徳化:道徳教育の充実 小テスト			
第9回: 健康や体力に関する指導の充実と教育課程			
第10回: 個に応じた指導の趣旨を生かした教育課程			
第11回: 総合的な学習のカリキュラム開発			
第12回: 家庭(保護者)・地域との連携を考える教育課程			
第13回: 教育課程のデザイン1:ヴィジョン構想について			
第14回: 教育課程のデザイン2:運営・経営の展望について 小テスト			
第15回: 教育課程の評価について			
定期試験 実施しない			
テキスト			
小学校学習指導要領 文部科学省			
参考書・参考資料等			

小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年6月 文部科学省)

学生に対する評価

課題提出50%、受講状況50%

授業科目名: 道徳教育の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 中島朋紀 担当形態:単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 道徳教育における基本的な考え方や問題・内容を理解し、教師の教育的態度や道徳教育の研究方法を身につける。			
2. 方法原理を基に道徳問題や道徳的価値の分析をし、道徳的実践の指導方法を展開することができる。			
授業の概要			
人間形成の重要な役割を担う道徳教育の動向と課題を明確にしながら、道徳教育の基礎理論と実践を展開する。基礎理論では、道徳及び道徳教育の基本的な問題にアプローチし、学校における道徳教育を中心に、道徳教育の目標と内容、指導計画、授業構成、実践的指導、道徳の教科化について理解を深める。			
授業計画			
第1回: 道徳の本質と道徳教育			
第2回: 道徳教育の歩み・変遷			
第3回: 子ども理解と道徳性の発達			
第4回: 道徳教育の目標と内容			
第5回: 道徳教育の全体的構想			
第6回: 道徳教育の指導計画			
第7回: 道徳の授業論			
第8回: 道徳授業の構成と展開			
第9回: 道徳的実践の指導			
第10回: 道徳学習指導案の作成1:教材・資料について			
第11回: 道徳学習指導案の作成2:教材研究について			
第12回: 規範意識を高める道徳授業の展開			
第13回: 道徳授業研究の方法1:課題と方法について			
第14回: 道徳授業研究の方法2:評価活動について			
第15回: 道徳教育の創造			
定期試験 実施しない			
テキスト			

ともに考え深めよう！新たな道徳教育の創造 大沢裕・中島朋紀編著 一藝社
 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「特別の教科 道徳編」 文部科学省 廣済堂あかつき
 今こそ特別活動！ 清水弘美・鈴木敦子・中島朋紀編著 一藝社

参考書・参考資料等

配付資料・プリント(授業時の指示)

小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)

学生に対する評価

課題提出40%、受講状況30%、演習・発表30%

授業科目名： 特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 相澤昭宏 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別活動の指導法 ・総合的な学習の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 特別活動の意義・目標及び内容を説明できる(特別活動の意義・目標と内容)			
2. 特別活動の指導の在り方を踏まえた実践ができる(特別活動の指導)			
3. 総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を説明できる (総合的な学習の時間の意義・目標と内容)			
4. 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し指導計画を立てられる(総合的な学習の 時間の指導計画)			
5. 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を踏まえた実践ができる(総合 的な学習の時間の指導と評価)			
授業の概要			
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、問題の発見や解決を図り、よりよ い集団や学校生活を築く児童生徒の自主的・実践的な活動である。また、総合的な学習の時間は、探 求的な学習を原理として、汎用的な資質・能力を育成し、各教科等・考え方を結集して全ての学習の 基礎として育まれ活用される力を包括的に発揮する学習である。特別活動、総合的な学習の時間にお ける教育活動の意義や内容、指導方法について理解を深め、具体的な実践的指導力の養成を目指 す。			
授業計画			
第1回：	ガイダンス ～特別活動と学校づくり、学級づくり～		
第2回：	特別活動の目標と3つの視点		
第3回：	指導の内容 ～児童会活動・クラブ活動・学校行事、他～		
第4回：	学級活動(1) ～学級づくりと学級目標設定のポイント～		
第5回：	学級活動(2) ～係活動と当番活動の指導の仕方～		
第6回：	学級活動(3) ～話し合い活動の充実に向けて～		
第7回：	学級経営と特別活動 ～学級生活の一日をつくるポイント～		
第8回：	総合的な学習の時間 総論 ～総合的な学習の時間と新学習指導要領～		
第9回：	総合的な学習に時間の本質 ～探求的な学びを創る～		
第10回：	各学校において定める目標と内容 ～総合的な学習の時間の見方・考え方～		

第11回：	実践を通して考える	～総合的な学習の時間と学級経営～
第12回：	実践を通して考える	～総合的な学習の時間と学校経営～
第13回：	実践を通して考える	～総合的な学習の時間と地域のつながり～
第14回：	総合的な学習の時間の指導計画	～単元づくり・授業づくり～
第15回：	総合的な学習の時間の評価	～指導と評価の一体化～
定期試験	実施しない	
テキスト		
小学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 東洋館出版		
小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省 東洋館出版		
参考書・参考資料等		
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 総合的な学習の時間 国立教育政策研究所		
小学校教育課程実践講座 総合的な学習の時間 田村学 編著 ぎょうせい		
学生に対する評価		
課題提出(授業内小レポート) 80%、受講状況20%		

授業科目名: 児童指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2単位	担当教員名: 武山朋子
			担当形態:単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 教育課程における児童指導・進路指導の意義や重要性、集団指導・個別指導の方法原理を理解している。 2. 校務分掌の役割や学校の指導方針に基づいた組織的な取組の重要性について理解している。 3. 個別の課題に関する児童への対応や関係機関との連携の在り方を理解して例示することができる。			
授業の概要			
自己実現を図るための生きる力の育成を目指す児童指導の意義を踏まえ、一人一人の個性を発見しよさや可能性を伸ばすための自己選択や自己決定の場や機会での指導や援助の事例に触れ、児童指導の実際を学ぶ授業を展開する。 (実務経験を活かした授業)			
授業計画			
第1回:	教育課程における学習指導と児童指導の意義		
第2回:	教育課程における進路指導・キャリア教育の意義		
第3回:	キャリア教育を通して育成する能力とカリキュラム・マネジメント		
第4回:	基盤となる子ども観と児童理解に基づく指導		
第5回:	児童理解をベースとした教科指導		
第6回:	キャリア教育の視点からの学級づくりと特別活動		
第7回:	キャリア教育の視点からの道徳教育と総合的な学習の時間		
第8回:	自己肯定感を育むカリキュラム・デザインとマネジメント		
第9回:	キャリア教育における集団指導と個別指導		
第10回:	チーム学校による児童指導と教育相談		
第11回:	今日的な様々な個別の課題と児童指導に関する法令等		
第12回:	個別の課題への対応～いじめ、不登校		
第13回:	個別の課題への対応～多様な背景をもつ児童		
第14回:	組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携		
第15回:	児童指導まとめ 事例に学ぶ		
定期試験	実施しない		
テキスト			

生徒指導提要 文部科学省 教育図書

参考書・参考資料等

小学校キャリア教育の手引き 文部科学省 実業之日本社

ワークシート・資料を必要に応じて配布する。

学生に対する評価

課題提出80%、受講状況20%

シラバス:教職実践演習

教職実践演習(幼・小)		単位数:2単位		担当教員名:中島朋紀・相澤昭宏・幸喜健・ 寶川雅子・石川満佐育・上田陽子・関川満美	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	2年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 300人					
教員の連携・協力体制					
担当教員の専門性を生かし、オムニバス形式で授業を進める。					
授業のテーマ及び到達目標					
1. 教員・保育者としての使命感・責任感・教育的愛情を自覚できる					
2. 教員・保育者にふさわしい社会性や対人関係能力、状況に応じた言動が取れる					
3. 幼児・児童理解を基にした指導と個や集団への指導ができる(ICT等の活用を含める)					
授業の概要					
本講義では、各自の履修履歴と実習体験からの学びを確認する。保育・授業観察、実践者との意見交換、実践記録や保育VTRを基にしたグループ討議を行う。指導案の作成、模擬保育・授業、仮想保育室作り、振り返りを行い、教材研究・環境構成・指導方法・評価などについて確認する。また、ICT等の効果的な活用方法について検討する。					
授業計画					
第1回: 授業ガイダンス					
これからの保育者・教育者に求められる資質・能力とは(不易と流行、得意分野)					
第2回: 授業・保育観察、併設校・園等教職員の講話と質疑					
第3回: 討議・問題点の整理(課題の洗い出しと整理)					
第4回: 事例研究Ⅰ 幼児・児童理解の内容と方法、理解に基づいた援助・指導					
第5回: 事例研究Ⅱ 保護者との連携、地域との連携、社会の動向(ICT等の効果的な活用を含む)					
第6回: 事例研究Ⅲ 学級運営、個と集団への指導方法(ICT等の効果的な活用を含む)					
第7回: 事例研究Ⅳ 特別な配慮を必要とする子どもへの対応					
第8回: 事例研究Ⅴ 子ども同士のトラブル・いじめ等への対応					
第9回: 事例研究Ⅵ 保育・教育環境を構想する(仮想保育室構想)					
第10回: 事例研究Ⅶ 保育室の運営・子どもへの対応					
第11回: 事例研究Ⅷ 保育室運営の振り返り					
第12回: 幼児の保育原理					
第13回: 学習指導案、保育指導計画の作成と活用の実際(ICT等の効果的な活用を含む)					
第14回: 模擬授業・保育					
第15回: 模擬授業・保育の省察と指導計画の再構成(ICT等の活用方法についての振り返りと再構成も考慮する)					
テキスト					
小学校学習指導要 平成29年3月31日 文部科学省告示					
幼稚園教育要領 平成29年3月31日 文部科学省告示					

幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年3月31日内閣府・文部科学省・厚生労働省告示
参考書・参考資料等
小学校学習指導要領解説 平成29年7月 文部科学省
幼稚園教育要領解説 平成30年2月 文部科学省
認定こども園教育・保育要領 解説 平成30年3月 内閣府 文部科学省 厚生労働省
学生に対する評価
提出物(履修カルテと自己課題レポート、見学レポート、指導案等) 80%
受講状況(グループ討議、事例研究、模擬授業・保育等の実施状況 等) 20%

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。